

7. 研究成果

福田 アジオ FUKUTA Ajo

拠点リーダー（2003年度～2007年度）

1 班課題 2・3、5 班、6 班

【著書】

- 1 『実験展示「あるく—身体の記憶—」をつくる』共編著、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2008 年 3 月
- 2 『高度専門職学芸員養成—大学院における養成プログラムの提言—』共編著、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2008 年 3 月
- 3 『東アジア生活絵引 中国江南編』共編著、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2008 年 2 月
- 4 『日本民俗学講演録』（中文）成都時代出版社、2008 年 2 月
- 5 『東アジア生活絵引 朝鮮風俗画編』共編著、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2008 年 1 月
- 6 『日本近世生活絵引 東海道編』共編著、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2007 年 12 月
- 7 『柳田国男の民俗学』（歴史文化セレクション）吉川弘文館、2007 年 9 月
- 8 『結衆・結社の日本史』（結社の世界史 1）編著、山川出版社、2006 年 7 月
- 9 『歴史探索の手法—岩船地蔵を追って—』ちくま新書、筑摩書房、2006 年 5 月
- 10 『精選日本民俗辞典』共編著、吉川弘文館、2006 年 3 月
- 11 『松原の民俗—長野県南佐久郡小海町松原—』（神奈川大学歴民調査報告 3）編、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2006 年 3 月

12 『寺・墓・先祖の民俗学』大河書房、2004 年 10 月

13 『環境・地域・心性—民俗学の可能性』共編著、岩田書院、2004 年 9 月

14 『民俗学案内』（講座日本の民俗学 11）編著、雄山閣、2004 年 3 月

15 『戦う村の民俗誌』（歴博ブックレット 27）歴史民俗博物館振興会、2003 年 9 月

【論文】

- 1 “How the Task of Studying Yanagita Kunio Has Developed”, H.D.Ölschleger ed. *THEORIES AND METHODS IN JAPANESE STUDIES: CURRENT STATE AND FUTURE DEVELOPMENTS* Bonn University Press, 2008 年 2 月
- 2 「地域史研究と広域調査」地方史研究協議会編『東西交流の地域史—列島の境目・静岡』雄山閣、2007 年 10 月
- 3 「民俗文化から見た日本海地方」武藤誠・北川フラム編『つながる日本海—新しい環日本海文明圏を築くために』現代企画室、2007 年 7 月
- 4 「地方生活文化と古村落保護」王恬編『古村落的沈思—中国古村落保護（西塘）国際高峰论坛論文集』上海辞書出版社、2007 年 6 月
- 5 「生活絵引編纂の世界的意義」『図像・民具・景觀 非文字資料から人類文化を読み解く』神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2007 年 3 月
- 6 「家族・親族と通過儀礼」『中国江南沿海村落民俗誌』「Ⅰ 東門島民俗誌」、神奈川大学、2006 年 3 月
- 7 「家族・親族と族譜」『中国江南沿海村落民俗誌』「Ⅱ 箬山民俗誌」、神奈川大学、2006 年 3 月

- 8 「民俗学と歴史学をつなぐもの—網野善彦の功績—」『神奈川大学評論』53号、神奈川大学広報委員会、2006年3月
- 9 「ニワバとジミョウ—和田正洲学説から学ぶ—」『民俗』194号・195号、相模民俗学会、2006年2月
- 10 「市町村合併と伝承母体—その歴史的概観—」『日本民俗学』245号、日本民俗学会、2006年2月
- 11 「村落領域論」『民間文化論壇』141号、中国民間文芸家協会、2005年2月
- 12 「図像資料としての素人絵—生活絵引き編さん資料としての可能性—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
- 13 「娘組と娘仲間」『環境・地域・心性—民俗学の可能性—』第2編、岩田書院、2004年9月
- 14 「生活図像資料と文献書誌データベースの作成」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

【その他】

- 1 「調査研究から情報発信へ—4年目を迎え大幅な組織改編—成果の公表、発信にむけて」『非文字資料研究』No.12、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年6月
- 2 《対談》「図像資料から見た江戸のマチ」『非文字資料研究』No.6、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
- 3 「プロジェクトの目的および研究計画」『非文字資料研究』No.1、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年10月
- 4 「図像資料の体系化と情報発信」『非文字資料研究』No.1、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年10月

川田 順造 KAWADA Junzo

サブリダー（2003年度～2005年度）事業推進担当者（2003年度～2005年度）共同研究員（2006年度・2007年度）

2班 課題1

【著書】

- 1 『もうひとつの日本への旅—モノとワザの原点を探る』中央公論新社、2008年3月
- 2 『文化人類学とわたし』青土社、2007年12月
- 3 『ヒトの全体像を求めて』編共著、藤原書房、2006年5月
- 4 『母の声、川の匂い—ある幼時と未生以前をめぐる断想—』筑摩書房、2006年1月
- 5 『人類の地平から—生きること死ぬこと—』ウェッジ、2004年7月
- 6 『人類学的認識論のために』岩波書店、2004年8月
- 7 『無文字社会の歴史 西アフリカ・モシ族の事例を中心に』岩波書店、2004年6月（韓国語）
- 8 『コトバ・言葉・ことば—文字を日本語を考える—』青土社、2004年4月

【論文】

- 1 「非文字資料による人類文化研究のために—感性の諸領域と身体技法を中心に」『身体技法・感性・民具の資料化と体系化』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「一人類学徒にとっての網野善彦の思い出」『神奈川大学評論』第53号、神奈川大学広報委員会、2006年3月
- 3 「感性の人類学のための予備的覚え書き」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 4 「ヒトとしての見識を磨く人文科学のために」『学術月報』通巻第732号、日本学術振興会、2005年11月
- 5 「声と文字と歴史と」『第38回歴博フォーラム「古代日本 文字のある風景」』大修館書店、2005年3月
- 6 《調査報告》「メキシコと内蒙古住民の身体技法についての調査の初次的報告—人力運搬法と座法を中心に—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

- 7 「海と母のあいだ—ピエール・ロティの『永遠の郷愁』』『風の旅人』 8号、ユーラシア旅行社、2004年6月
- 8 「課題と方法」『生業活動に伴う身体技法と体形の関連性に関する研究』第1章、大妻女子大学人間生活科学研究所、2004年4月
- 9 「文化人類学的アプローチ」『生業活動に伴う身体技法と体形の関連性に関する研究』第7章、大妻女子大学人間生活科学研究所、2004年4月
- 10 「感性の諸領域、とくに匂いの文化についてのフランス南部と西アフリカ3カ国での初次的調査」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月
- 11 「ブルターニュからブローニュへ—ある鬼才とのめぐり逢い—」『風の旅人』6号、ユーラシア旅行社、2004年2月
- 12 “Réflexions sur les rapports dynamiques entre les cultures sonores d'une part, et la cognition historique et sa représentation d'autre part: cas des sociétés de l'intérieur de l'Afrique occidentale.” *CULTURES SONORES D'AFRIQUE III*. Hiroshima City University. January 2004

【その他】

- 1 「非文字資料から見る人類文化」『非文字資料とはなにか—人類文化の記憶と記録—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年6月
- 2 《対談》「感性のモデル化—人類学の立場から—」『非文字資料研究』No.4、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年6月
- 3 「人類学の立場からの問題提起」『非文字資料研究』No.2、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年12月
- 4 「身体技法および感性の資料化と体系化」『非文字資料研究』No.1、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年10月

中村 政則 NAKAMURA Masanori

サプリーダー（2003年度～2006年度）事業推進担

当者（2003年度～2006年度）

共同研究員（2007年度）

4班

【著書】

- 1 『年表昭和史—増補版・1926—2003』岩波書店、2004年
- 2 『帝国を考える』双風社、2004年

【論文】

- 1 「文字資料と非文字資料のはざま—オーラル・ヒストリーの可能性」『地域情報学の構築—新しい知のイノベーションへの道』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「戦後歴史学と現代歴史学」『日本歴史学協会』、2008年（発行予定）
- 3 「極限状況に置かれた者の語り—ナガサキの被爆者の場合」『オーラル・ヒストリー学会誌』第3号、日本オーラル・ヒストリー学会、2007年9月
- 4 「終わった戦後と終わらない戦後」『歴史学研究』2007年9月号、第831号、歴史学研究会、2007年9月
- 5 「グローバリゼーションと歴史学—21世紀歴史学の行方」『神奈川大学評論』第56号、神奈川大学広報委員会、2007年3月
- 6 「満州移民の戦後史」『歴史と民俗』21、平凡社、2005年3月
- 7 「日本における近代国家の建設」国際歴史学会、2004年4月
- 8 『歴史と民俗の交錯—記録すること・記憶すること』『歴史民俗資料学研究』『歴史学という学問、歴史民俗資料学研究科10周年記念公開シンポジウム』、2004年3月
- 9 「日本近現代史のなかの昭和天皇」『年報 日本現代史』、2004年3月
- 10 「オーラル・ヒストリーの可能性」『歴史と民俗』22、平凡社、2004年3月
- 11 「昭和恐慌と金解禁政策」『じっきょう』No.58、2004年2月
- 12 「20世紀・日本史学史の里程標」『歴史評論』、2004年2月
- 13 「自分史・地域史・国民史」『長野県飯田市地域

史研究所年報』、2004年

【その他】

- 1 「環境と民具—再び世界常民について」『非文字資料研究』No.7、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年3月
- 2 「歴史的事実とは何か—文字資料と非文字のあいだ—」『非文字資料研究』No.5、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年9月
- 3 「中国雲南省麗江調査記—東巴文化の今昔—世界常民—雲南省で考える—」『非文字資料研究』No.4、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年6月
- 4 「開港と日本近代」神奈川市民講座、2004年6月
- 5 「それは一枚の写真から始まった」『非文字資料研究』No.1、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年10月

香月 洋一郎 KATSUKI Yoichiro

研究遂行責任者・事業推進担当者（2003年度～2007年度）

3班 課題1・課題2、6班

【論文】

- 1 「『環境認識』調査覚書」『「景観」と「環境」についての覚書』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 2 「『澁澤写真』の活用に向けての一試行」『「景観」と「環境」についての覚書』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 3 「風景としての情報」『手段としての写真—「澁澤写真」の追跡調査を中心に—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 4 「語るという行為の表と陰」『地域の自立 シマの力』下、コモンズ、2006年10月
- 5 「海人のむらの民俗誌から／中」『歴史と民俗』21、平凡社、2005年3月
- 6 「磁場としてのフィールド・プロセスとしての情報」『環』2005年冬号、藤原書店、2005年1月
- 7 「集落景観分析への一試論」『環境と景観の資料化と体系化にむけて』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

8 「海人のむらの民俗誌から（上）」『歴史と民俗』20、平凡社、2004年3月

9 「民俗学教育の具体例（4）」『神奈川大学』香月洋一郎編著、講座・日本の民俗学（11）『民俗学案内』、2004年3月

10 「なにからどのように始めるか」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

11 「フィールドでの記憶6—宮本常一の景観写真から—」『未来』446号、未来社刊、2003年11月

12 「フィールドでの記憶5—宮本常一の景観写真から—」『未来』445号、未来社刊、2003年10月

【その他】

1 「日本常民文化研究所」『非文字資料研究』No.2、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年12月

2 「環境と景観の資料化と体系化」『非文字資料研究』No.1、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年10月

佐野 賢治 SANO Kenji

研究遂行責任者・事業推進担当者（2003年度～2007年度）

4班

【論文】

1 「地域研究と情報学の連携—只見町インターネット・エコミュージアムの可能性」『地域情報学の構築—新しい知のイノベーションへの道—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月

2 「文化情報発信システムとしてのインターネット博物館—大学・地域博物館の連携を中心にして—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月

3 「“遊び”からゲームへ—個別化する子供文化—」『野外文化教育』第5号、野外文化教育学会、2005年10月

4 「ナシ（納西）族文化の象徴・東巴文字」『アジ

ア遊学』No.63、勉誠出版、2004年5月

- 5 “Ethnical Acceptations of the Ksitiganbha Belief on the Afterlife Concepts of Asian Peoples.” *Cultural diversity and Common Values*. Korean National Commission for UNESCO. 2004年3月
- 6 「“非文字資料”と地域社会—福島県只見町の民具保存活用運動—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月
- 7 「体験と経験—体と心の“ふるさと”—」『少年期に必要な体験活動と指導のあり方』国立高遠少年自然の家、2004年2月

【その他】

- 1 《対談》「第3回国際シンポジウムにむけて—場の記憶・からだの記憶 非文字資料研究の新地平—」『非文字資料研究』No.18、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 2 「修験道と日本文化—その象徴する世界—」『非文字資料研究』No.9、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年9月
- 3 「中国雲南省麗江調査記—東巴文化の今昔—“観光”という情報発信」『非文字資料研究』No.4、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年6月
- 5 「文化情報発信の新しい技術の開発」『非文字資料研究』No.1、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年10月

鈴木 陽一 SUZUKI Yoichi

研究遂行責任者（2003年度・2004年度）、事業推進担当者（2003年度～2007年度）

1班 課題3、6班

【著書】

- 1 『東アジア生活絵引 中国江南編』共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年1月
- 2 『金庸を語る—武侠小説の魅力』御茶の水書房、2004年5月
- 3 『歴史と文学の境界』頸草書房、2004年3月
- 4 『小説的読法』（中文）文聯出版社、2003年12月

- 5 『中国の英雄豪傑を読む』大修館書店、2003年12月

【論文】

- 1 「『姑蘇繁華図』と18世紀中国におけるリアリズムの曙光」『図像から読み解く東アジアの生活文化』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年6月
- 2 「物語の復権を目指して—『中国四大奇書の世界』を読む—」『學燈』5月号、丸善、2004年4月
- 3 「中国の図像についてのノート」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

- 4 「文学と歴史の境界」『人文学研究叢書』19、勁草書房、2003年3月

【その他】

- 1 「第一班公開研究会『図像から読み解く東アジアの生活文化』—開催の主旨—」『非文字資料研究』No.11、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 2 「中国調査 中間レポート」『非文字資料研究』No.1、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年10月

橘川 俊忠 KITSUKAWA Toshitada

サブリーダー（2006年度・2007年度）事業推進担当者（2003年度～2007年度）

4班、6班

【論文】

- 1 「『非文字資料の体系化』についての理論的諸問題」『非文字資料研究の理論的諸問題』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「廟と村の関係」『中国江南沿海村落民俗誌』I、東門島民俗誌、神奈川大学、2006年3月

【その他】

- 1 《対談》「第3回国際シンポジウムにむけて—場の記憶・からだの記憶 非文字資料研究の新地平—」『非文字資料研究』No.18、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月

2 「プロジェクトの構想および研究組織」『非文字資料研究』No.2、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年12月

三鬼 清一郎 MIKI Seiichiro

事業推進担当者（2003年度～2005年度）共同研究員（2006年度・2007年度）

3班 課題3

【著書】

- 1 『愛知県史／資料編12／織豊2』（共著）愛知県、2006年3月
- 2 『稿本 豊臣秀吉文書（一）』科学研究費報告書「織豊期発給文書の史料学的研究」、2005年3月

【論文】

- 1 「蔚山城合戦図をめぐる」『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解説』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 2 「陳立書からみた秀吉家臣団の構成」藤田達生編『小牧・長久手の戦いの構造』岩田書院、2006年4月
- 3 「『惣無事』令について」『日本史の研究』212号、山川出版社、2006年3月
- 4 「国掟の成立をめぐる」『商経論叢』、2004年4月
- 5 「徳川家康と陰陽道」『朝尾直弘著作集』月報2、岩波書店、2004年1月

【その他】

- 1 「倭城・倭館・合戦図—文献史料との関わりをめぐる—」『非文字資料研究』No.7、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年3月

西 和夫 NISHI Kazuo

サブリーダー（2006年度・2007年度）事業推進担当者（2003年度～2007年度）

1班 課題2

【著書】

- 1 『日本建築史図集 新訂第二版』彭国社、2007年2月
- 2 『壱岐勝本浦まちあるき読本』壱岐市、2006年2

月

- 3 『総覧 登録有形文化財建造物5000』（共著）海路書院、2005年11月、「登録文化財の現状と課題」執筆
- 4 『京都で建築に出会う—見るおもしろさ、知る楽しさ』彭国社、2005年8月
- 5 『長崎出島 オランダ異国事情』角川叢書、2004年9月
- 6 『新しい松代が見えてくる—武家屋敷の庭園と町屋』（共著）NPO法人 夢空間松代のまちと心を育てる会、2004年3月「松代に残る文化遺産の保存と活用」執筆
- 7 『長崎出島ルネサンス復原オランダ商館』（共著）、戎光祥出版、2004年2月

【論文】

- 1 「明治6年の住宅建築絵解き」『非文字資料から人類文化へ—研究参画者論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「小豆島に劇場があった—池田劇場の再建」『歴史と民俗』24、平凡社、2008年3月
- 3 “Japan as seen from architecture (1) Let's Restore Lost Japanese Landscapes: Kaido & Syukubamachi.” *Japan SPOTLIGHT 153th*. June 2007
- 4 「建築史の社会貢献—学生よ、町へ出よう」『建築雑誌』No.1562、2007年5月
- 5 「軽妙、遊び心、自由。それが数奇屋」『てんとう虫』4、2007年4月
- 6 山形県長井市における歴史的建造物の調査検討—共同執筆『日本建築学会関東支部研究報告集 2006年第77回』2007年3月
- 7 「明治期の木造郵便局建物の検討—旧鶴沼郵便局・旧江津郵便局・旧名護屋郵便局を中心に—」共同執筆『日本建築学会関東支部研究報告集 2006年度第77回』、2007年3月
- 8 「中山道鶴沼宿の現状と復原—各務原の歴史的建造物 その3—」共同執筆『日本建築学会関東支部研究報告集 2006年度第77回』、2007年3月
- 9 「棟札と絵図による加佐美神社の検討—各務原の歴史的建造物、その4—」共同執筆『日本建築学

- 会関東支部研究報告集2006年度第77回』、2007年3月
- 10「非文字資料としての建築図面」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第4号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 11「川上貞奴の菩提寺貞照寺と別荘萬松園—ひとりの女性先駆者の実績」『歴史と民俗』23、平凡社、2007年2月
- 12「宿場町」『日本歴史』第704号、吉川弘文館、2007年1月
- 13「壱岐勝本浦の町家・酒造店・石造物 町づくりに向けた建造物調査」共同執筆『日本建築学会大会学術講演梗概集2006』日本建築学会、2006年9月
- 14「川上貞奴の菩提寺貞照寺と別荘萬松園 各務原の歴史的建造物 その2」共同執筆『日本建築学会大会学術講演梗概集2006』日本建築学会、2006年9月
- 15「中山道鶴沼宿の復原考察 各務原の歴史的建造物その1」共著『日本建築学会大会学術講演梗概集2006』日本建築学会、2006年9月
- 16「富士紡績豊門会館の移築・建設経過に関する文書による検討—駿河小山、富士紡の建築、その3」共同執筆『日本建築学会関東支部講演梗概集2005』日本建築学会、2006年3月
- 17「中山道鶴沼宿の幕末期の様相—建物の復原検討を中心に」『歴史と民俗』22、平凡社、2006年3月
- 18「日本住宅の通奏低音—書院造」『新建築2005年11月臨時増刊 日本の建築空間』、新建築社、2005年11月
- 19「建築文化のスーパーバイブル—100の空間が語るもの」『新建築2005年11月臨時増刊 日本の建築空間』、新建築社、2005年11月
- 20「豊門会館本館（旧和田豊治向島自邸）について—駿河小山、富士紡績の建築その2」共同執筆『日本建築学会大会学術講演梗概集2005』日本建築学会、2005年9月
- 21「豊門会館の設立と様相について—駿河小山、富士紡績の建築その1」共同執筆『日本建築学会大会学術講演梗概集2005』日本建築学会、2005年9月
- 22「日本建築の素晴らしい遺産—建築史無用論を吹き飛ばすために」『新建築』2005年8月号、新建築社、2005年8月
- 23「目白文化村と会津八一」『新建築』2005年6月号、新建築社、2005年6月
- 24「建築教育の悩み」『新建築』2005年4月号、新建築社、2005年4月
- 25「文化財指定の問題点そして庶民文化財の試み」『歴史と民俗』21、平凡社、2005年3月
- 26「究極の文化財—平戸の町並み調査」『新建築』2005年2月号、新建築社、2005年2月
- 27「1枚の写真と23枚の絵—東京下落合の歴史を探る—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
- 28「棟札・絵画史料などによる益富家住宅建設年代の検討 生月島（長崎県）鯨組関連施設の調査研究その2」共同執筆『日本建築学会大会学術講演梗概集2004』日本建築学会、2004年9月
- 29「益富家住宅と捕鯨関連施設 生月島（長崎県）鯨組関連施設の調査研究その1」共同執筆『日本建築学会大会学術講演梗概集2004』日本建築学会、2004年9月
- 30「平戸市志々伎町福田酒造元禄蔵の調査研究平戸町並み調査その8」共同執筆『日本建築学会大会学術講演梗概集2004』日本建築学会、2004年9月
- 31「防空壕」『歴史と民俗』20、平凡社、2004年3月
- 32「平戸旧城下町の武家屋敷—大曲公家住宅、大曲敦家住宅、内野茂樹家住宅を中心に、平戸町並み調査その7」共同執筆『日本建築学会九州支部研究報告』日本建築学会、2004年3月
- 33「生月（長崎県）鯨組益富家住宅の調査」共同執筆『日本建築学会九州支部研究報告』日本建築学会、2004年3月
- 34「古城は本当に工場だった」『日本歴史』668号、吉川弘文館、2004年1月

- 35「江津市本町地区の町並み—江津町並み調査その1」共同執筆『日本建築学会大会学術講演梗概集』日本建築学会、2003年9月
- 36「出島和蘭商館6棟の復原について」共同執筆『日本建築学会大会学術講演梗概集』日本建築学会、2003年9月
- 37「現在建物に見る平戸旧城下町の都市構造とその変容—オランダ商館復原と合わせた町の活性化に向けて、平戸町並み調査その6」『日本建築学会大会学術講演梗概集』日本建築学会、2003年9月
- 38「長野市松代町の町並み調査について—旧花之丸御殿の建物と町家」共同執筆『日本建築学会大会学術講演梗概集』日本建築学会、2003年4月

河野 通明 KONO Michiaki

事業推進担当者（2003年度～2007年度）

2班 課題2、5班

【論文】

- 1「非文字資料研究・身体技法研究の河野なりの受け止め方と調査の概要—神奈川県21世紀COEプログラムへの参加にあたっての基本姿勢」『身体技法・感性・民具の資料化と体系化』神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2「身体技法の違いにもとづく古代日本列島の民族分布の復原—東北地方の木摺臼調査からの古代日本列島の民族分布の復原への見通し—」『身体技法・感性・民具の資料化と体系化』神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 3「民具という非文字資料の体系化のための在来農具の比較調査—『民具からの歴史学』の有効性の追究と方法論確立の試み—」『身体技法・感性・民具の資料化と体系化』神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 4「神奈川県21世紀COEプログラムにおける『非文字資料の体系化』とは何か」『非文字資料研究の理論的諸問題』神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 5「遣唐使を通じた長底犁導入時期の民具調査にもとづく特定」『遣唐使・遣唐使1400周年記念国際シンポジウム報告書』浙江工商大学日本文化研究所、2008年3月（発行予定）
- 6「『農具便利論』の鋤図の柄はなぜ短い」『民具マンスリー』39巻12号、神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 7「『犁の形態比較から東アジアの民族移動に迫る』のねらい」『図像・民具・景観 非文字資料から人類文化を読み解く』神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 8「日本の犁に見られる朝鮮系・中国系とその混血型」『図像・民具・景観 非文字資料から人類文化を読み解く』神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 9「遣唐使将来唐代犁の復原と導入時期の特定」『歴史と民俗』23、平凡社、2007年2月
- 10「万石通しの発明と伝播（二）—江戸での発明、大坂への伝播の詳細—」『民具マンスリー』39巻8号、神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年11月
- 11「万石通しの発明と伝播（一）—近世農書・明治農具絵図から見た万石通し—」『民具マンスリー』39巻6号、神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年9月
- 12「周防地方の民具から見た犁耕伝来の2つの波」『商経論叢』42巻2号、神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年9月
- 13「千石通しの発明と伝播（二）」『民具マンスリー』38巻8号、神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年11月
- 14「千石通しの成立と伝播（一）」『民具マンスリー』38巻7号、神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年10月
- 15「滋賀県中畑遺跡出土平安時代犁の検討」『商経論叢』第40巻4号、神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年3月
- 16「在来農具の分布から見た東北地方」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川県21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

- 17 「民具の犁から四国の古代を復原する」『民具集積』10号、四国民具研究会、2004年12月
 - 18 「7世紀出土—木犁へら長床犁についての総合的考察」『商経論叢』40巻2号、神奈川大学経済学会、2004年12月
 - 19 「東北地方の引手なし馬鋤」『民具マンスリー』37巻1号、神奈川大学日本常民文化研究所、2004年4月
 - 20 「滋賀県川田川原田遺跡出土犁の伝来事情とその後」『商経論叢』39巻4号、神奈川大学経済学会、2004年3月
 - 21 「東北地方の木摺臼の全域調査—身体技法から日本列島の民族的多様性を検出する試み—」『年報人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月
 - 22 「長谷川雪旦筆『四季耕作図屏風』の基礎的検討」『国立歴史民俗博物館研究報告』117集、国立歴史民俗博物館、2004年2月
 - 23 「民具の犁調査にもとづく大化改新政府の長床犁導入政策の復原」『ヒストリア』188号、大阪歴史学会、2004年1月
 - 24 「絵引きはつくれぬものか—歴史への視点—」『民具研究』128号、日本民具学会、2003年9月
- 【その他】
- 1 「完形品だった千石通し登呂B」『民具マンスリー』39巻1号、神奈川大学日本常民文化研究所、2006年4月
 - 2 「なぜ『道具』ではなく『民具』なのか」『非文字資料研究』No.11、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
 - 3 「菅江真澄の挿絵に粉本があった？」『民具マンスリー』38巻10号、神奈川大学日本常民文化研究所、2006年1月
 - 4 「民具が語る列島の歴史」『非文字資料研究』No.7、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年3月
 - 5 「民具という非文字資料から日本列島の古代多民族社会を復原する試み」『非文字資料研究』No.2、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会

議、2003年12月

小馬 徹 KOMMA Toru

事業推進担当者（2003年度～2006年度）

1班、6班

【著書】

- 1 『『渋江公昭家文書目録（二）』共著、神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科、2007年3月
- 2 『アジア・アフリカにおける多言語状況と生活文化の動態』共著「グローバル化の中のシェン語」「ケニア多言語状況の報告」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2005年5月
- 3 『渋江公昭家文書目録（一）』共編著、神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科、2005年3月
- 4 『日向—光みちるく—toの生活誌』（日向市史民俗編）共編著、「光満つ夢のまにまに」、日向市史編さん委員会、2005年3月
- 5 『新しい文化のかたち』共著、「日本文化の『斜め嫌い』再考」小馬徹ほか執筆、お茶の水書房、2005年1月
- 6 『文化人類学文献事典』共著、弘文堂、2004年11月
- 7 『東アフリカにおけるグローバル化過程と国民形成に関する地域民族史的研究』共著、「小さな田舎町という場から見た民族と国家」国立民族学博物館、2004年6月
- 8 『新版文化人類学—文化的実践知の探究（放送大学教材）』共著、「第3章 人生儀礼の文化人類学—人間の一生と文化」「第7章 国家と民族—多文化の中の自他意識」放送大学教育振興会、2004年3月

【論文】

- 1 「『血液型信仰』批判再考—『人間』と『科学』の接続をめぐる試論」『人文研究』第160号、神奈川大学人文学会、2007年3月
- 2 「渋江家（菊地市）文書と柳田国男間—河童研究類例のない資料と“ニアミス”」『熊本日日新聞（2月17日）』、2007年2月
- 3 「『カネと人間』で扱いきれなかった諸側面」『資源人類学』第9号、東京外国語大学アジア・ア

- リカ言語文化研究所、2007年2月
- 4 「河童の異名、香亦坊・カワトンボをめぐる断章」『歴史と民俗』23、平凡社、2007年2月
 - 5 「鷹場な河童と謹厳なハイエナー超越的な時間とそれに抗する時間の物語、そのエージェントたち」『人文研究』第159号、神奈川大学人文学会、2006年9月
 - 6 「魔術を魔術と呼ぶ魔術と、鏡ならざる国の文化の技術」『神奈川大学評論』第54号、神奈川大学広報委員会、2006年7月
 - 7 「『河童信仰の歴史研究』序説ー『氏は菅原』呪歌とヒョウスベ再考」『歴史民俗資料学研究』第11号、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2006年3月
 - 8 「渋江家文書に見る河童信仰」『河童伝承と水神』菊池市文化講演会・第18回熊本地名シンポジウム実行委員会、2005年10月
 - 9 「E-P後ブローデルー歴史人としての人類学とアフリカ」『神奈川大学評論』第51号、神奈川大学広報委員会、2005年8月
 - 10 「河童信仰広げた肥後渋江家」『熊本日々新聞（平成17年5月7日）』、2005年8月
 - 11 「大学という無駄を考える」『モナド』第27号、神奈川大学外国語学部基本科目部会、2005年3月
 - 12 「ケニアの勃興する都市混合言語、シェン語ー仲間言葉から国民アイデンティティ・マーカヘー」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
 - 13 「川田順造『アフリカの声ー〈歴史〉への問い直し』」『神奈川大学評論』第49号、神奈川大学広報委員会、2004年12月
 - 14 「ゆかしく年を重ねる雅のままに」『人文研究』第153巻、神奈川大学人文学会、2004年9月
 - 15 「maが差した話ースワヒリ語のレッスン」『月間言語』第33回第8号、大修館書店、2004年8月
 - 16 「川田順造『コトバ・言葉・ことばー文字と日本語を考える』」『神奈川大学評論』第48号、神奈川大学広報委員会、2004年7月
 - 17 「カネと人間の人類学のために」『月間みんぱく』

- 第28巻第6号、国立民族学博物館、2004年6月
- 18 「野村雅一著『しぐさの人間学』」『月間言語』第33巻第5号、大修館書店、2004年5月
 - 19 「『さかい』の論理と『あいだ』の論理ー言語の人類学的側面」『歴史と民俗』20、平凡社、2004年3月
 - 20 「ケニヤッタの椅子ーそして法科大学院」『神奈川大学評論』、第44号、神奈川大学広報委員会、2003年3月
 - 21 「フィールドワークと『私』」『モナド』第23号、神奈川大学外国語学部基本科目部会、2003年3月
 - 22 「クシャミの比較民俗学ーキプシギス文化を中心に」『歴史と民俗』19、平凡社、2003年3月
 - 23 「論説 喜栄先生の遠近法」『人文研究』第148号、神奈川大学人文学会、2003年3月

【その他】

- 1 「Sex? Hapana, tumeーchillー『非文字』の混合言語、シェン語のVサイン」『非文字資料研究』No. 9、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年9月
- 2 「2脚の椅子が跨ぐ空間と時間ームテサー一世のトーネット#14ー」『非文字資料研究』No. 4 神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年6月

中島 三千男 NAKAJIMA Michio

事業推進担当者（2003年度～2006年度）

3班 課題3

【著書】

- 1 『日中両国の視点から語る植民地期満州の宗教』共著、柏書房、「第2部／移民を追う諸宗教の満州進出ー第1章／旧満州国における神社の設立についてー」2007年9月
- 2 『山城国大山崎荘の総合的研究（第二次）』編著、2002年度～2004年度日本私立学校振興・共済事業団「学術研究振興資金」研究成果報告書、「まえがき」「第7章／近現代離宮八幡宮史覚書ー歴代神職の事業を中心にー」、2005年3月
- 3 『歴史をよむ』共著、東京大学出版会、2004年11月

【論文】

- 1 「『海外神社』跡地に関するデータベース」構築について」津田良樹・中島三千男『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解説』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 2 「『海外神社』跡地に見る景観の変容とその要因」中島三千男、津田良樹ほか『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解説』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 3 「旧満州国の「満鉄附属地神社」跡地調査からみた神社の様相」津田良樹、中島三千男ほか「1章／満州国」「2章／満鉄附属地神社」を単独執筆『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第4号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 4 「旧朝鮮の神社跡地調査とその検討—全羅南道、和順郡を中心に—」津田良樹、中島三千男ほか「はじめに」「1章/旧朝鮮における神社の創立について」「第2章/全羅南道及び和順郡における神社・神祠の創立について」を単独執筆『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 5 「近代の皇室儀式における英照皇太后大喪の位置と国民統合」小園優子、中島三千男『人文研究』157号、神奈川大学人文学会、2005年12月
- 6 「明治天皇の大喪と台湾一代替わり儀式と帝国の形成—」『歴史と民俗』21 神奈川大学日本常民文化研究所、2005年3月
- 7 「旧満州国における神社の設立について」『科学研究費補助金研究成果報告書／植民地期中国東北地域における宗教の総合的研究』研究代表者木場明志、2005年3月
- 8 「旧南洋群島の神社跡地調査報告」富井正憲・中島三千男ほか共同執筆「はじめに」「1章委任統治領＜南洋群島＞」、「2章＜南洋群島＞における神社の創立」単独執筆『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年

12月

- 9 「海外神社跡地に見る景観の変容」『環境と景観の資料化と体系化に向けて』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
- 10 「旧樺太（南サハリン）神社跡地調査報告」富井正憲、中島三千男ほか「図1 樺太における支庁別神社数『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

【その他】

- 1 「海外神社跡地データベースの構築」津田良樹、中島三千男ほか共同執筆『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解説』、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 2 「山城国大山崎荘の総合的研究」『日本歴史』693号、日本歴史学会（吉川弘文館）2006年2月
- 3 「『総合学術研究推進委員会』の発足」『非文字資料研究』No.8、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年6月
- 4 「調査プロジェクト紹介『2003年度大山崎調査報告』」『常民研NEWS』22号、神奈川大学日本常民研究所、2003年12月

田上 繁 TAGAMI Shigeru

事業推進担当者（2003年度～2007年度）

4班、5班

【著書】

- 1 『高度専門職学芸員養成—大学院における養成プログラムの提言—』共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 『沼津市史 通史別編 漁村』（共著）、沼津市、2007年3月
- 3 『紀州小山家文書』日本評論社、2005年4月
- 4 『中世・近世土地所有史の再構築』（共著）、青木書店、2004年10月
- 5 『日本地域社会の歴史と民俗』（共著）、雄山閣、2003年9月

【論文等】

- 1 「『渋谷公昭家文書目録』（一）」神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2007年3月

- 2 「『時国健太郎家文書目録』(二分冊の一・二分冊の二)」神奈川大学日本常民文化研究所編、2006年3月
- 3 「『疋田家文書目録』(二分冊の一・二分冊の二)」神奈川大学日本常民文化研究所編、2005年3月
- 4 「『渋谷公昭家文書目録』(一)」神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 2005年3月
- 5 「大山崎離宮八幡宮領における神田管理と若衆中」2002年度～2004年度日本私立学校振興・共済事業団「学術研究振興資金」研究成果報告『山城国大山崎荘の総合的研究(第2次)』所収、2005年3月
- 6 「近世伊豆国伊東地域における山林利用について」『伊東市史研究』、2004年3月
- 7 「近世神社領の土地管理組織—大山崎離宮八幡宮領を事例として—」神奈川大学日本常民文化研究所論集『歴史と民俗』20、平凡社、2004年3月
- 8 「『石川県輪島市町野町牛尾・伏戸区有文書目録』輪島市教育委員会・神奈川大学日本常民文化研究所編、2004年3月

【その他】

- 1 「人類文化研究のための非文字資料の体系化」『日本歴史』696号、38—41、2006年5月
- 2 「随想 古文書返却の旅に同行して」『神奈川大学評論』53、神奈川大学広報委員会、2006年3月
- 3 「非文字資料としての加賀藩検地絵図を読み解く」『非文字資料研究』No.8、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年6月
- 4 「中国雲南省麗江調査記—東巴文化の今昔—東巴經典と現代に伝わる原初的な紙製法」『非文字資料研究』No.4、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年6月
- 5 「歴史民俗資料学研究科」『非文字資料研究』No.2、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年12月

廣田 律子 HIROTA Ritsuko

事業推進担当者(2003年度～2007年度)

2班 課題1、4班

【著書】

- 1 『鬼之来路』(中文) 中華書局、2005年10月

【論文】

- 1 「モーションキャプチャによる芸能の定量比較研究」廣田律子・海賀孝明・岡本浩一『身体技法・感性・民具の資料化と体系化』、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「中国湖南省のヤオ族の儀礼に見出す道教の影響—馮家実施の還家愿儀礼調査から—」『東方宗教』110号、日本道教学会、2007年11月
- 3 「研究ノート 鬼神について」『歴史と民俗』24、平凡社、2007年
- 4 「中国の祭りと仮面劇に來臨する神々の物語—將軍と神兵—」『日本人の異界観』せりか書房、2006年10月
- 5 「ヤオ族還家愿儀礼調査ノート—湖南省藍山県馮家の事例から—」『神話・象徴・文化／Ⅱ』楽浪書院、2006年5月
- 6 「モーションキャプチャを使った芸能比較研究の試み」廣田律子・長瀬一男・海賀孝明・岡本浩一『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 7 「祭祀儀礼の中の神話」『神話・象徴・文化』楽浪書院、2005年8月
- 8 「充分利用三次元動力録像推進中国演技的比較」『中国江西國際儺文化學術研討會論文提要』中国江西國際儺文化芸術周組委員会、2005年6月
- 9 「来訪する鬼と翁」『折口信夫・釋迢空—その人と学問』おうふう、2005年5月
- 10 「東のアジア来訪神」『東アジア比較文化研究』Vol.4、2005年5月
- 11 「鬼神假面の造形—從日本与中国的事例看呪眼的表現(中文)」『域外民俗学鑑要』寧夏人民出版社、2005年3月
- 12 「説唱と小説の間—鼓詞と『海遊記』—」『国際経営論集』第27号、2004年3月

【その他】

- 1 「「荒ぶる神」と日中の祭祀儀礼」『東方』322号、2007年12月
- 2 「鼓詞陳十四夫人伝描繪的地獄之行—血池地獄考

- (中文)」2007 中国靖江宝卷文化国際学術研討会、2007 年 8 月
- 3 「日本伝統戯曲与中国民俗芸能之継承関係—与応用立体座標法解釈—」戯曲教育回顧与展望国際学術研討会、2006 年 12 月
- 4 「モーションキャプチャを使った芸能比較研究の試み」『韓・中・日無形文化遺産フォーラム』、2006 年 5 月
- 5 「モーションキャプチャを使った日中芸能研究試論」『研究年報』第 2 号、お茶の水女子大学比較日本学研究センター、2006 年 3 月
- 6 「身体表現としての芸能とその継承」『歴史と民俗』22、平凡社、2006 年 3 月
- 7 「モーションキャプチャを使った芸能比較研究の試み」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第 3 号、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2006 年 3 月
- 8 《翻訳》「説唱芸能〈唱南游〉の語り 続編 V」『麒麟』15 号、神奈川大学経営学部、2006 年 3 月
- 9 「デジタル技術による東アジア芸能比較研究試論」『18 世紀東アジアの公演文化』、2006 年 2 月
- 10 「民俗芸能のデジタル化の取り組み」『非文字資料研究』No. 9、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2005 年 9 月
- 11 「祭りに来訪する神—中国湖南省瑶族の祭りから—」『東アジア比較文化研究』4、2005 年 6 月
- 12 《翻訳》「説唱芸能〈唱南游〉の語り 続編 IV」『麒麟』14 号、神奈川大学経営学部、2005 年 3 月
- 13 「中国湖南省新寧県瑶族「盤王節」調査報告」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第 2 号、2005 年 1 月
- 14 「湖南省新寧県瑶族盤王節調査」湖南省新寧県、2004 年 10 月
- 15 「翁の語りに見える中国と日本」『アジア遊学』63 号、2004 年 5 月
- 16 「仮面と民俗—中国江南の呪眼をもつ仮面から—」『よみがえる四川文明三星堆と金沙遺跡の秘宝展図録』共同通信社、2004 年 5 月
- 17 「三番叟と中国江南の土地神を繋ぐもの」『鼎』第 7 号、2004 年 5 月

- 18 「中国石郵村の追儺行事に登場する鬼と翁の身体技法に関する調査」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第 1 号、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2004 年 3 月
- 19 《翻訳》「海遊記 1」『麒麟』13 号、神奈川大学経営学部、2004 年 3 月
- 20 「中国の善鬼—江南の仮面劇から—」『アジア遊学』59 号、2004 年 1 月
- 21 「鬼神の面」『非文字資料研究』No. 2、2003 年 12 月

田島 佳也 TAJIMA Yoshiya

事業推進担当者 (2003 年度～2007 年度)

1 班 課題 2、4 班

【著書】

- 1 『日本近世生活絵引 北海道編』共編著、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2007 年 12 月
- 2 『日本近世生活絵引 北陸編』共編著、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2008 年 3 月

【論文】

- 1 「『近世生活絵引』作成に向けての試み—土屋又三郎『農業図絵』を題材にして—」『図像・民具・景観 非文字資料から人類文化を読み解く』神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2007 年 3 月
- 2 『日本列島における人間—自然相互関係の歴史的・文化的検討』(総合地球環境学研究所) 共著、2006 年 4 月
- 3 「漁業と漁民習俗」『中国江南沿海村落民俗誌』、神奈川大学、2006 年 3 月
- 4 「改革開放以前漁村漁業の展開過程」『中国江南沿海村落民俗誌』、2006 年 3 月
- 5 「網野史学の「海民」論・「海村」論」『神奈川大学評論』第 53 号、神奈川大学広報委員会、2006 年 3 月
- 6 「北海道における北前船主・右近家、中村家の活躍と残像など」『北前船から見た地域史像』(第 6 回「西回り」航路フォーラムの記録) 福井県河野

村、2004年12月

- 7 「蝦夷地の鯨漁業と文化財」『月刊文化財』493号、第一法規、2004年11月
- 8 「道南西海岸漁村の『場所請負制』試論—明治初期の爾志郡（乙部村・熊石村）を事例に—」『漁業経済研究』第49巻第1号、漁業経済学会、2004年6月
- 9 「漁撈研究のいま④ 近世期における蝦夷地の漁業」『Arctic Circle』第50号、2004年3月

【その他】

- 1 「日本近世生活絵引の作成をめざして—近世の北陸農村と松前地漁村の人びとの暮らしと生業—」『非文字資料研究』No.16、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年6月
- 2 「屏風絵を読むにあたって—『江差松山屏風』の読み取り体験から—」『非文字資料研究』No.11、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 3 「『鯨漁』図のあれこれ」『非文字資料研究』No.2、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年12月

山口 建治 YAMAGUCHI Kenji

事業推進担当者（2003年度～2007年度）

2班 課題1

【論文】

- 1 「方相・傀儡・郭禿・鍾馗—『天籟』もう一つの身体技法—」『非文字資料から人類文化へ—研究参画者論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「『散楽』日本伝来についての覚え書き」『人文研究』第155集、神奈川大学人文学会、2005年3月
- 3 「『散楽』の語義の変容」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
- 4 「オコ（嗚呼）とサルガク（散楽）」『歴史と文学の境界』勁草書房、2003年5月

【その他】

- 1 「身体技法と祭祀芸能」『非文字資料とはなに

か—人類文化の記憶と記録—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年6月

- 2 「非文字資料としての日本語を考える—音訓、当て字、語源—」『非文字資料研究』No.4、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年6月

孫 安石 SON An Suk

事業推進担当者（2003年度～2007年度）

3班 課題3、4班

【著書】

- 1 『中国における日本租界』（共編著）御茶の水書房、2006年3月
- 2 『戦争・ラジオ・記憶』（共編著）勉誠出版社、2006年3月

【論文】

- 1 「戦前中国留学生の『実習』と『見学』について」『人文学研究所報』No.39、神奈川大学人文学研究所、2006年3月
- 2 「日中戦争時期における上海総領事館警察」御茶の水書房、2005年4月
- 3 「米国人宣教師と日中戦争、上海の敵国人集団生活所」『人文学研究所報』No.38、神奈川大学人文学研究所、2005年3月
- 4 「日中戦争時期における上海総領事館」『戦時上海』研文出版、2005年
- 5 「声音の歴史研究—日本所蔵の中国ラジオ放送関連資料について」『人文研究』No.155、神奈川大学人文学研究所、2005年
- 6 「声音の歴史研究—日本所蔵の中国ラジオ放送関連資料について」『人文研究』神奈川大学、2005年
- 7 「『明六雑誌』とその周辺」御茶の水書房、2004年3月
- 8 「1860年代の上海における日本情報」『明六雑誌とその周辺』、2004年
- 9 「米国国立公文書館（NARA）の資料調査報告」『界限』島根県立大学メディアセンター報、2003年12月
- 10 「精緻な歴史研究に会う喜び—中国人留学生と

五四運動』『東方』2003年12月号、2003年12月

11「『ペストと近代中国—衛生の「制度化」と社会変容』」（飯島渉著、研文出版）『中国研究月報』2003年11月号、2003年11月

12「上海的無線広播与日語大東広播電台」上海市檔案館編『租界里的上海』上海社会科学出版社、2003年10月

13「漢口の都市発展と日本租界」『人文研究』No. 149、神奈川大学人文学会、2003年

14「1920年代の中国における無線電信・ラジオ講演会」『アジア遊学』第54号勉誠出版、2003年

【その他】

1 東アジア共通の歴史教科書—『自国主義』を超える一步を期待』『京郷新聞』2007年1月20日』韓国、2007年1月

2「租界と居留地に刻印された人間活動の営み」『非文字資料研究』No.12、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年6月

3《書評》「佐藤卓己著『八月十五日の神話』—終戦記念日のメディア学（ちくま新書、2005年）」『神奈川大学評論』第54号、神奈川大学広報委員会、2006年

4「漢口日本租界関係資料」『中国における日本租界』御茶の水書房、2006年3月

5「防衛庁防衛研究所史料室所蔵の無線通信・ラジオ放送関連文書」『戦争・ラジオ・記憶』勉誠出版社、2006年3月

6「上海市档案馆 ラジオ関連資料と日中関係史」『戦争・ラジオ・記憶』勉誠出版社、2006年3月

7「歴史研究と図像資料のデジタル化」『非文字資料研究』No. 8、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年6月

8「上海史研究と『良友』画報について」『非文字資料研究』No. 5、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年9月

ジョン・ボチャラリ John BOCCELLARI

事業推進担当者（2003年度～2007年度）

1班 課題1

【著書】

1 *Multilingual Version of Pictopedia of Everyday Life in Medieval Japan compiled from picture scrolls*, vol.1, 『マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引』第1巻（本文編）（語彙編）共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月

2 *Multilingual Version of Pictopedia of Everyday Life in Medieval Japan compiled from picture scrolls*, vol.2, 『マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引』第2巻（本文編）（語彙編）共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年6月

【論文】

1「『絵巻物による日本常民生活絵引』英訳の課題と問題点」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム推進会議、2004年3月

【その他】

1《研究エッセイ》「『非文字資料』と国際交流日誌」『非文字資料研究』No.10、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年12月

北原 糸子 KITAHARA Itoko

事業推進担当者（2003年度～2007年度）

3班 課題3

【著書】

1『日本災害史』（編著）吉川弘文館、2006年9月

2『善光寺地震に学ぶ』（編著）信濃毎日新聞社、2003年7月

3『近世災害情報論』塙書房、2003年6月

4『ドキュメント災害史』（編著）国立歴史民俗博物館展示図録、2003年6月

【論文】

1「ティツィング『日本風俗図誌』掲載の二点の火山噴火図について」『歴史民俗資料学研究』第13号、神奈川大学、2008年3月

2「災害メディアと景観変容」『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解説』人類文化研究のための非文字資料の体系化研究成果報告書、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、

2007年12月

- 3 「歌川広重『名所江戸百景』と安政江戸地震」
日本地震学会広報紙『なるふる』第61号、2007
年5月
- 4 「関東大震災の行政対応策を生み出した大正6年
東京湾台風」『歴史都市防災論文集』1、立命館
大学、2007年
- 5 「海外における災害研究の新しい傾向について」
『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系
化』4号、神奈川大学21世紀COEプログラム
研究推進会議、2007年3月
- 6 「災害写真のデジタル化作業の憂鬱」『神奈川大
学21世紀COEプログラム調査研究資料4・手
段としての写真—「濫写写真」の追跡調査を中心
に—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推
進会議、2007年3月
- 7 「関東大震災の写真（東京都慰霊堂保管）につい
て」『歴史災害と都市—京都・東京を中心に—』
立命館大学21世紀COEプログラム・神奈川大
学21世紀COEプログラム推進会議ジョイント
ワークショップ、2007年2月
- 8 「メディアとしての災害写真—明治中期の災害を
中心に」『神奈川大学21世紀COEプログラム第
1回国際シンポジウム プレシンポジウム報告
1・版画と写真—19世紀後半 出来事とイメージ
の創出』神奈川大学21世紀COEプログラム研
究推進会議、2006年3月
- 9 「関東大震災のデータベースを作成」『救急医療
ジャーナル』14（6）、プラネット、2006年12月
- 10 「最近の災害史研究から—世界と日本—」『京都
歴史災害研究』5、2006年
- 11 「東京府における明治天皇聖蹟—指定と解除の歴
史」『国立歴史民俗博物館研究報告』121、2005
年
- 12 『災害と写真メディア—1894年庄内地震のケー
ススタディー—』『環境と景観の資料化と体系化に
向けて』神奈川大学21世紀COEプログラム推
進会議、2004年12月
- 13 「地震の痕跡と『名所江戸百景』の新しい読み方」
原信田實・北原糸子、『年報 人類文化研究のため

の非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21
世紀COEプログラム推進会議、2004年3月

齊藤 隆弘 SAITO Takahiro

事業推進担当者（2003年度～2007年度）

4班・6班

【論文】

- 1 “Total-variation approach and wavelet shrinkage
for color-image denoising with inter-channel cross-
correlations.” Proc. *The 3rd IEEE Int. Symposium
on Communications, Control and Signal Processing.*
(ISCCSP 2008) March 2008
(now printing)
- 2 「サンプリング定理の壁を打ち破る：一枚の画像
からの超解像度オーバーサンプリング」『映像情
報メディア学会誌／62（2）』、2008年2月
- 3 “High-quality image interpolation via nonlinear
image decomposition.” Proc. *SPIE/IS&T Electronic
Imaging* (EI 2008) 6812, 681230:01-681230:12.
January 2008
- 4 “Noise suppression approach with the BV-L1
nonlinear image decomposition.” Proc. *SPIE/IS&T
Electronic Imaging* (EI 2008) 6817, 681708:01-
681706:12. January 2008
- 5 “Demosaiicing method using the extended color
total-variation regularization.” Proc. *SPIE/IS&T
Electronic Imaging* (EI 2008) 6817, 681711:01-
181711:12. January 2008
- 6 「Total-Variation 正則化を用いたシャープニン
グ—デモザイキング法」『映像情報メディア学会
誌／61（11）』、2007年11月
- 7 “Denoising via nonlinear image decomposition
for a digital color camera.” Proc. *2007 IEEE Int.
Conf.on Image Processing.* (ICIP 2007) September
2007
- 8 “Interframe motion deblurring using spatio-
temporal regularization.” Proc. *2007 IEEE Int.
Conf.on Image Processing.* (ICIP 2007), IV-409～IV-
412 September 2007
- 9 “A variational recovery method for virtual view

- synthesis.” Proc. *2007 IEEE Int. Conf. on Image Processing*. (ICIP 2007) September 2007
- 10 「実用化に向けた経年劣化シネマ映像のデジタル修復に関する検討」『画像電子学会誌』2007年7月
- 11 「乗算型骨格/テクスチャ画像分離の画像処理への応用」『電子情報通信学会論文誌』J90-D (7)、2007年7月
- 12 「TV正則化法を用いたJPEG圧縮画像の超解像デコーディング」『電子情報通信学会論文誌』J90-D (7)、2007年7月
- 13 “Nonlinear decomposition-and-denoising approach for removal of signal-dependent noise of a digital color camera.” Proc. *SPIE 4th Int. Symposium on Random Noise and Fluctuations*, 66031M-66031M:12,1. May 2007
- 14 “Suppression of time-varying motion blur caused by camera shake.” Proc. *2-nd International Workshop on Image Media Quality and Its Applications*. (IMQA2007) March 2007
- 15 “Super-resolution total-variation decoding of JPEG-compressed image data.” Proc. *SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI2007) 6502, 650215: 1 - 650215:12 January 2007
- 16 “Removal of signal-dependent noise for a digital camera.” Proc. *SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI2007) 6502, 650213: 1 -650213:12 January 2007
- 17 “CMOS color image sensor with silicon photodiode and overlaid organic photoconductive layer having narrow absorption band.” Proc. *SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI2007) 6502, 65026: 1 -65026:12 January 2007
- 18 “Motion deblurring for suppression of breathing distortions caused by camera shake.” *SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI2007) 6497, 649745: 1 - 649745:12 January 2007
- 19 “Color transformation and interpolation for a direct Imaging with a color filterArray.” Proc. *2006 IEEE Int. Conf. Image Process*. (ICIP 2006). October 2006
- 20 “Variational retinex algorithm with its application to a high-quality chroma Key.” Proc. *2006 IEEE Int. Conf. Image Process*. (ICIP 2006). October 2006
- 21 “Adaptable image interpolation with skeleton-texture separation.” Proc. *2006 IEEE Int. Conf. Image Process*. (ICIP2006) October 2006
- 22 “High-quality image interpolation based on multiplicative skeleton-texture Separation.” Proc. *14-th European Signal Process. Conf.* (EUSIPCO 2006), CD-ROM1568979711.pdf. September 2006
- 23 “Model-based robust variational method for motion de-blurring.” Proc. *14-th European Signal Process. Conf.* (EUSIPCO 2006), CD-ROM 1568979710.pdf. September 2006
- 24 “Image sharpening by coupled nonlinear-diffusion on the chromaticity-brightnesscolor representation.” Proc. *14-th European Signal Process. Conf.* (EUSIPCO 2006), CD-ROM1568979709.pdf. September 2006
- 25 「明滅による不快症状を防止するための映像変換手法」『電子情報通信学会論文誌』、J89-D (7)、2006年7月
- 26 「手ぶれ映像に含まれる映像酔いを引き起こしやすい振動成分の解析」『電子情報通信学会論文誌』J89-A (3)、2006年3月
- 27 「画像復元に基づいた自由視点画像の生成」『O plus E, 新技術コミュニケーションズ2006年3月号』、2006年3月
- 28 “Robust global motion estimation in video stabilization for reducing visually induced motion sickness.” Proc. *SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI 2006)6077, 6077 1X:1-60771X:12. January 2006
- 29 “Spatially adaptive super-resolution sharpening-demosacking for a single solid-state color image sensor, Proc. *SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI 2006) 6069, 606908:1-606908:12. January 2006
- 30 “Image recovery for a direct color Imaging approach using a color filter Array.” Proc. *SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI 2006) 6069, 606905:1-606905:12. January 2006

- 31 “Coupled nonlinear-diffusion color image sharpening based on the chromaticity-brightness model.” *Proc. SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI 2006) 6077, 60771H:1-60771H:12. January 2006
 - 32 “Separation of irradiance and reflectance from observed color images by logarithmical nonlinear diffusion process.” *Proc. SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI 2006) 6805, 680511:1-680511:12. January 2006
 - 33 「ぼけモデルを用いた動きぼけ補正」『映像情報メディア学会誌』vol.59 (11)、2005年11月
 - 34 “Super-resolution sharpening-demosaicking with spatially adaptive total-variation Image regularization.” *Advances in Multimedia Information Processing, Lecture Notes in Computer Science*, Springer Verlag 3767, (Part I). November 2005
 - 35 “An adaptive video stabilization method for reducing visually induced motion Sickness.” *Proc. 2005 IEEE Int. Conf. Image Process. (ICIP 2005)* I September 2005
 - 36 “Super-resolution sharpening-demosaicking method for removing image blurs caused by an optical low-pass filter.” *Proc. 1-st Int. Workshop on Image Media Quality and its Applications*. September 2005
 - 37 “Model-based PDE method and model-free PDE method for motion de-blurring.” *Proc. SPIE Visual Commun. & Image Processing (VCIP 2005)* 5960. July 2005
 - 38 「光学的ローパスフィルタによるボケの復元機能を有するデモザイキング」『映像情報メディア学会誌／vol.59 (3)』、2005年3月
 - 39 “Motion de-blurring by coupled nonlinear diffusion with discrete calculus adaptive to a motion direction.” *Proc. SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI 2005) 5685. January 2005
 - 40 “Sharpening-demosaicking method with a total-variation-based super-resolution Technique.” *Proc. SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI 2005) 5678. January 2005
 - 41 “Variational color transformation method for direct color Imaging.” *Proc. SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI 2005) 5678. January 2005
 - 42 「連立非線形拡散法の動きぼけ補正への拡張」『映像情報メディア学会誌』vol.58 (12)、2004年12月
 - 43 “Selective image sharpening by simultaneous nonlinear-diffusion process with spatially varying parameter presetting.” *Advances in Multimedia Information Processing, Lecture Notes in Computer Science*, Springer Verlag 3332, (2). November 2004
 - 44 「連立非線形拡散法によるカラー画像の選択的鮮鋭化」『映像情報メディア学会誌』vol.58、(11)、2004年11月
 - 45 “Sharpening-demosaicking method for removal of image blurs caused by an optical low-pass filter.” *Proc. 2004 IEEE Int. Conf. Image Process. (ICIP 2004)* October 2004
 - 46 “Motion de-blurring by coupled nonlinear diffusion using an anisotropic peaking term.” *Proc. 4-th IASTED Int. Conf. Visualization, Imaging, and Image Processing*. September 2004
 - 47 「デジタル画像処理による古い映像フィルムの修復とデジタルフィルムアーカイブの構築」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化／第1号』、2004年3月
 - 48 “Motion de-blurring based on time-evolution of simultaneous nonlinear reaction-diffusion.” *Proc. SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI 2004) 5308. January 2004
 - 49 “Demosaicking for a color image sensor with removal of blur due to an optical low-pass Filter.” *Proc. SPIE/IS&T Electronic Imaging* (EI 2004) 5301, 334-345. January 2004
- 【その他】
- 1 《特許出願》「画像処理装置」特願2007-166369、2007年6月
 - 2 「報告書：超高品質デジタルシネマのためのヒ

ューマンプロセッサ型撮像方式の研究」平成17年度～18年度科学研究費補助金 基盤研究 (C), 研究成果報告書、2007年6月

- 3 《特許出願》「固体撮像素子」特願2007-016453、2007年1月
- 4 《特許出願》「画像処理装置および撮像装置」特願2007-002655、2007年1月
- 5 《褒賞》「2006画像符号化シンポジウム (PCSJ2006) フロンティア賞」『TV正則化法による超解像JPEGデコーディング』、2006年11月
- 6 「特許取得：画像符号化方式」特許登録記事3772185、2006年2月
- 7 「報告書：不完全観測データからの高品質共有型リアル三次元映像空間表現の作成に関する研究」平成15年度～16年度文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C), 研究成果報告書、2005年3月
- 8 「報告書：デモザイキング技術を用いた高精細なマルチバンドカラー画像入力方式に関する研究」, 放送文化基金助成の援助金、2004年3月
- 9 「画像・動作情報のデジタル入力について」『非文字資料研究』No.1, 神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、19、2003年10月

大里 浩秋 OSATO Hiroaki

研究遂行責任者 (2005年度～2007年度) 共同研究員 (2003年度・2004年度) 事業推進担当者 (2005年度～2007年度)

3班 課題3、4班

【著書】

- 1 『中国における日本租界 重慶・漢口・杭州・上海』 (共編著) 御茶の水書房、「杭州日本租界のたどった道」『浙江文化研究』初探「杭州日本租界関連資料」、2006年3月

【論文】

- 1 「宗方小太郎日記、明治26～29年」『人文学研究所報』No.41、神奈川大学人文学研究所、2008年3月
- 2 「在華紡の居住環境について—上海の事例」『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解説』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会

議、2007年12月

- 3 「在華本邦補絵生、第一種から第三種まで」『中国研究月報』2007年9月号、社団法人中国研究所、2007年9月
- 4 「宗方小太郎日記、明治22～25年」『人文学研究所報』No.40、人文学研究所、2007年3月
- 5 「杭州日本租界のたどった道」神奈川大学人文学研究叢書22『中国における日本租界』お茶の水書房、2006年3月
- 6 「同仁会と『同仁』」『人文学研究所報』No.39、神奈川大学、人文学研究所、2006年3月
- 7 「戦前の横浜中華学校での教科書問題」『中国研究月報』2005年4月号、社団法人中国研究所、2005年4月
- 8 「漢口榮善堂の歴史 (上)」『人文研究』155号、神奈川大学人文学会、2005年3月
- 9 「上海歴史研究所所蔵宗方小太郎資料について」『人文学研究所報』No.37、神奈川大学人文学研究所、2004年3月
- 10 「歴史問題と日中関係の現在」『神奈川大学評論』46号、神奈川大学広報委員会、2003年11月
- 11 「杭州日本租界について」『人文研究』149号、神奈川大学人文学会、2003年6月
- 12 「『日華学報』目次」『人文学研究所報』No.38、神奈川大学人文学研究所、200

【その他】

- 1 「袁偉時『近代化と歴史教科書』を読む」『中国研究月報』1、2006年5月号、社団法人中国研究所、2006年5月
- 2 「杭州に関わる二つのテーマ」『非文字資料研究』No.8、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年6月
- 3 「中国人の歴史認識」『神奈川大学評論』52号、神奈川大学広報委員会、2005年12月
- 4 《書評》「明治前期日中学術交流の研究」『日本歴史』、2004年12月
- 5 《書評》「黄土の村の性暴力—大娘たちの戦争は終わらない」『神奈川大学評論』48号、神奈川大学広報委員会、2004年7月
- 6 《書評》「反逆の獅子 浅原健三の生涯」『神奈川

大学評論』45号、神奈川大学広報委員会、2003年7月

- 7 「上海の片隅に暮らして」『中国研究月報』2003年6月号、社団法人中国研究所、2003年6月
- 8 「中日間の近代歴史を愛でる人」『上海ウォーカー』No.45、2003年3月

芦澤 玖美 ASHIZAWA Kumi

共同研究員（2003年度～2005年度）

2 班

【論文】

- 1 K.Ashizawa, N.Tanamachi, S.Kato, C.Kumakura, X.Zhou, F.Jin, Y.Li and S.Lu. "Growth of height and leg length of children in Beijing and Xilinhhot, China." *Anthropological Science*, 116. 2007.
- 2 N.Rahmawati, S.Budiharjo and K.Ashizawa. "Somatotypes of young male athletes and non-athlete students in Yogyakarta, Indonesia." *Anthropological Science*, 115. 2007
- 3 「CASMASを用いた日本人と中国人の骨成熟パターンの比較」松浦路子、佐藤亨至、芦澤玖美、劉琳、山本照子共著『日本成長学会雑誌』12巻2号、日本成長学会、2007年
- 4 M.A.Ali, K.Ashizawa, S.Kato, M.Kouchi, C.Koyama and H.Hoshi. "Biological variables in height growth of Japanese twins: A comparison with those of singletons." *Annals of Human Biology*, 34. 2007
- 5 「日本人高齢者の生業とソマトタイプ」芦澤玖美、加藤純代、熊倉千代子、楠本綾乃、河原雅典、川田順造、佐藤陽彦 *Anthropological Science*（和文誌号）、114、2006年
- 6 「戦時下の東京の小学生の成長」芦澤玖美、棚町徳子、尾花美恵子『日本成長学会雑誌』12巻2号日本成長学会、2006年
- 7 「中国内蒙古の若者の身体形状の特性」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 8 K.Ashizawa, C.Kumakura, S.Kato, T.Kawabe and

R.C.Hauspie. "Adolescent height growth of girls in Tokyo." *Anthropological Science*, 113. 2005

- 9 J.A.M.S.Rahman, M.Sli, K.Ashizawa, and F. Ohtsuki. "Prediction of Adult Stature for Japanese Population: An improvement of Ali-Ohtsuki Equations." *Anthropological Science*, 112. 2005
- 10 K.Ashizawa, C.Kumajura, X.Zhou, F.Jin and J.Cao. "RUS skeletal maturity of children Beijing." *Annals of Human Biology*, 32. 2005
- 11 N.T.Rahmawati, J.Hstuti and K.Ashizawa. "Growth and somatotype of urban and rural Javanese children in Yogyakarta and Bantul, Indonesia." *Anthropological Science*, 112. 2004
- 12 「調査地の人々の生活背景」『生業活動に伴う身体技法と体形の関連性に関する研究 第2章』平成12年度～平成15年度科学研究費補助金研究成果報告書、2004年
- 13 「ソマトタイプと生業」『生業活動に伴う身体技法と体形の関連性に関する研究 第4章』大妻女子大学、2004年
- 14 「身体サイズの特性と体の柔軟性」芦澤玖美、熊倉千代子『生業活動に伴う身体技法と体形の関連性に関する研究 第3章』平成15年度科学研究費補助金研究成果報告書、2004年

【その他】

- 1 「長くなった日本人の脚？」『非文字資料研究』No.5、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年9月

宇佐見 義之 USAMI Yoshiyuki

共同研究員（2003年度～2005年度）

4 班

【著書】

- 1 『リンゴと地球の間にはたらく力とは何か?』宇佐見義之ほか共著、森北出版、2005年6月
- 2 Y.Usami, K.Kamono and K.Kawamura. "How Anomalocaris Swam in the Cambrian Sea; A Theoretical Study Based on Hydrodynamics." In T.Sekimura et. al. eds., *Morphogenesis and Pattern Formation in Biological Systems*. Springer, 2003

【論文】

- 1 “Theoretical study on the body form and swimming pattern of Anomalocaris based on hydrodynamic simulation.” J.Theor.Bio.

梅野 光興 UMENO Mituoki

共同研究員（2003年度）

2 班

【著書】

- 1 『高知県の不思議事典』共著、新人物往来社、2006年8月
- 2 『呪術の知とテクネー』共著、斎藤英喜編、森話社、2003年5月

【論文】

- 1 「門松小考」『高知県立歴史民俗資料館紀要』第15号、高知県立歴史民俗資料館、2007年3月

【その他】

- 1 「書誌紹介 大本敬久『民俗の知恵 愛媛八幡浜民俗誌』〈愛媛民俗叢書①〉」『日本民俗学』249号、日本民俗学会、2007年2月
- 2 『鬼—展示解説資料集—』「鬼あらわる」「神楽の鬼」梅野光興、池田光穂共同執筆、「神楽探訪」「鬼神問答資料集」高知県立歴史資料館、2005年12月
- 3 『鬼図鑑in土佐—企画展「鬼」より—7回』高知新聞、2005年9月
- 4 「資料見聞 安居神楽の山主と神戸市近江寺の鬼面」「土佐の鬼の東と西」『岡豊風日』第54号、高知県立歴史民俗資料館、2005年7月
- 5 「四国妖怪談義」『四国民俗』36号・37号合併号、四国民俗学会、2004年7月
- 6 「紙の造形—いざなぎ流の御幣—」『非文字資料研究』No.3、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月
- 7 「お化けポスト便から—妖怪・幽霊アンケート資料集—」『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』第13号、高知県立歴史民俗資料館、2004年3月
- 8 「高知県の神楽における鬼と翁の身体技法の調査」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラ

ム研究推進会議、2004年3月

- 9 「仮面—神と人をつなぐもの—」『ライト＆ライフ』No.517、四国電力株式会社、2004年1月
- 10 『あの世・妖怪・陰陽師〈異界万華鏡・高知編〉—展示開設資料集—』高知県立歴史資料館、2003年7月

落合 一泰 OCHIAI Kazuyasu

共同研究員（2003年度～2005年度）

2 班

【著書】

- 1 『性的支配と歴史—植民地主義から民族浄化まで』落合一泰ほか共著、大月書店、「被征服男性の〈受忍〉—現代メキシコのカレンダーアートに見る性的支配の表象」2008年2月
- 2 『観光文化学』落合一泰ほか共著、新曜社、「情報資本主義と近代観光—『アラウンド・ザ・ワールド』から『エキゾチック・ジャパン』へ」2007年12月
- 3 De la Mano de lo Sacro:Santos y Demonios en el Mundo Maya, 共著、Universidad Nacional Autónoma de México (México, D.F.), “Visitas de santos den San Andrés Larráinzar”, 2006年12月
- 4 El Mundo Maya:Miradas Japonesa, 共編著、Universidad Nacional Autónoma de México (Mérida)、序章 “Introducción”、第10章 “El ser y el tiempo entre los mayas: ‘Un trompo no se cae mientras siga girando’ ” を執筆、2006年8月
- 5 Conflict and Settlement in Europe, Susumu Yamauchi, Ryo Oshiba & Kazuyasu Ochiai, Centre for New European Studies, Hitotsubashi University、2006年3月
- 6 『講座世界の先住民族 ファースト・ピープルズの現在08中米・カリブ海、南米』共著、「ツォツィルー『やわらかな文化』の継承と更新」、明石書店、2006年1月
- 7 Kóten: Lecturas cruzadas Japón-América Latina, 共著、Editorial Pontificia Universidad Javeriana (Bogotá)、第12章 “Livin’ la vida glocal: Los japoneses y el mundo occidentalizado” 2005年12

月

- 8 Il Sacro e il paesaggio nell' America indigena, 共著、CLUEB (Bologna)、第8章“Los maya spaisajistas: Transmisión de ‘la cultura de lo perecedero’ a través de los siglos”、2003年10月

【論文】

- 1 “‘Non ho nulla di speciali da dire’ La violenza invisibile del cogitas ergo es neldialogo interculturale.”, Quaderni Asiatici 79号、2007年9月
- 2 “‘I have Nothing Special to Say’: On invisible violence of cogitas ergo es in intercultural dialogue.”, Social Identities 12巻1号、2006年1月
- 3 “When the Saints Go Marching in the Chiapas Highlands.”, Voices of Mexico 73号、2005年8月
- 4 “La forma de la historia profunda: una revisión de algunos estudios etnohistóricos en Mesoamérica.”, Cuicuilco 9巻26号、2003年8月

【その他】

- 1 “Imágenes de la nación a través de los álbumes fotográficos a comienzos del siglo XX.” Taller *Imágenes, educación y nación: un diálogo japonés-mexicano en torno al día de la independencia mexicana*, El Colegio de México, 2007.11.
- 2 「不屈と孤独—人類学者ゼリア・ナトルのトランス・アトランティック物語」『Aguila y Sol』21号、2007年1月
- 3 「不屈と孤独—人類学者ゼリア・ナトルのトランス・アトランティック物語」日墨交流会第12回メキシコセミナー、2006年11月
- 4 「マヤ人と酌み交わす—現代インディオ社会の酒文化」たばこと塩の博物館新大陸講座第54回、2006年11月
- 5 《エッセイ》「柔らかな生命へのオマージュ—弧をなす三詩人の対話から」『現代詩手帖特集版ル・クレジオ地球上の夢』、2006年10月
- 6 「近代メキシコの先住民主義をめぐって—もうひとつの “The only good Indian is a dead Indian”」国立民族学博物館共同研究会「『先住民』とはだ

れか？」、2006年7月

- 7 “Similitudes y diferencias entre México y Japón: Sobre la política cultural de dos países occidentalizados fuera de Occidente.” Segunda Cumbre Cultural Japón-México, Nakamura Museum, Kanazawa, 2006.7.
- 8 《資料紹介》「著者自身による新刊紹介 EL mundo maya: miradas japonesas」『ラテンアメリカ・カリブ研究』14号、2007年6月
- 9 「マヤ文化の翻訳—「硬い文化」と「軟らかい文化」のあいだで」『えるふ』13号、2006年1月
- 10 「トランス・アトランティック物語—ヨーロッパ・コレクションのなかの古代メキシコ工芸」『非文字資料研究』No.6、2004年12月

金子 隆一 KANEKO Ryuichi

共同研究員（2003年度～2007年度）

3班 課題3、4班

【論文】

- 1 「西洋人写真家の眼差しがもたらしたもの—セバスチャン・ドブソン氏の報告をめぐって—」『非文字資料とはなにか—人類文化の記憶と記録—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年6月
- 2 「内田九一の『西国・九州巡幸写真』の位置」『版画と写真—19世紀後半 出来事とイメージの創出—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月

【その他】

- 1 《研究エッセイ》「『横浜写真』の位置」『非文字資料研究』No.3、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

菊池 勇夫 KIKUCHI Isao

共同研究員（2003年度～2007年度）

1班 課題2

【著書】

- 1 『日本近世生活絵引 北海道編』共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月

- 2 『菅江真澄』（人物業書）吉川弘文館、2007年
- 3 『蝦夷島と北方世界』（日本の時代史19）編著、吉川弘文館、2003年12月
- 4 『飢餓から読む近世社会』校倉書房、2003年10月

【論文】

- 1 「丸小屋と移動する人々」『非文字資料から人類文化へ—研究参画者論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「松前 近蝦夷地の社会相—央斉『模地数理』から—」『日本近世生活絵引 北海道編』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 3 「『絵引』をする菅江真澄」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第4号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 4 「『模地数里』に描かれた松前—長春丸・女商人・馬—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 5 「鷹の獲得技術について—江戸時代の北日本を中心に—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
- 6 「蝦夷『迺布利』の成立年をめぐって」『真澄学』2、東北芸術工科大学東北文化研究センター、2005年11月
- 7 「荷を負うアイヌの姿—菅江真澄の絵から—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

【その他】

- 1 「生活絵引と菅江真澄」『非文字資料研究』No.16、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年6月
- 2 「カモカモ（鴨々）について—コトからモノへの関心—」『非文字資料研究』No.8、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年6月

木下 宏揚 KINOSHITA Hirotsugu

共同研究員（2003年度～2007年度）

4 班

【論文】

- 1 「民俗学研究のための情報発信」『地域情報学の構築—新しい知のイノベーションへの道』木下宏揚、能登正人、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「オントロジー理論に基づく非文字資料のデータ化可能性の検討」木下宏揚、能登正人『非文字資料とはなにか—人類文化の記憶と記録—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年6月
- 3 「民俗学研究のための情報発信」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 4 「電子図書館と情報セキュリティ」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

【その他】

- 1 《研究エッセイ》「WWWのセキュリティ」『非文字資料研究』No.2、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年12月

君 康道 KIMI Yasumichi

共同研究員（2003年度～2007年度）

1 班 課題1

【著書】

- 1 *Multilingual Version of Pictopedia of Everyday Life in Medieval Japan compiled from picture scrolls*, vol.1, 『マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引』第1巻（本文編）（語彙編）共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 *Multilingual Version of Pictopedia of Everyday Life in Medieval Japan compiled from picture scrolls*, vol.2, 『マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引』第2巻（本文編）（語彙編）共編著、神奈

川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、
2007年6月

【その他】

- 1 「『絵巻物による日本常民生活絵引』 マルチ言語版編纂における問題」『非文字資料研究』No.15、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 2 「『絵巻物による日本常民生活絵引』がこだわるもの—あるいはマルチ言語版が伝えていかなければならないもの—」『非文字資料研究』No.7、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年3月

金 貞我 KIM Jeong Ah

共同研究員（2003年度～2005年度）COE教員
（非常勤講師）（2006年度・2007年度）

1班 課題1・課題3

【著書】

- 1 *Multilingual Version of Pictopedia of Everyday Life in Medieval Japan compiled from picture scrolls*, vol.1, 『マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引』第1巻（本文編）（語彙編）共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 『東アジア生活絵引 中国江南編』共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年2月
- 3 『東アジア生活絵引 朝鮮風俗画編』共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年2月
- 4 *Multilingual Version of Pictopedia of Everyday Life in Medieval Japan compiled from picture scrolls*, vol.2, 『マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引』第2巻（本文編）（語彙編）共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年6月

【論文】

- 1 「韓国・朝鮮編の生活絵引編纂と図像資料—『平壤監司饗宴図』を例にして—」『図像・民具・景観 非文字資料から人類文化を読み解く』

神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月

- 2 「都市図における風俗表現の機能（概要）」『図像から読み解く東アジアの生活文化』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年6月
- 3 「風俗表現における図様の伝統と創造—東アジア風俗画資料の作例から—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 4 「申潤福筆『蕙園傳神帖』について—朝鮮時代の風俗画にみる女性像—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

【その他】

- 1 《対談》「第2回国際シンポジウムにむけて—図像・民具・景観 非文字資料から人類文化を読み解く」『非文字資料研究』No.13、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年9月
- 2 「第1班公開研究会『図像から読み解く東アジアの生活文化』—都市図における風俗表現の機能」『非文字資料研究』No.11、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 3 「都市における風俗表現の機能」『非文字資料研究』No.11、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 4 「ソウル世界博物館大会の参加報告」『非文字資料研究』No.6、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
- 5 「朝鮮時代の図像資料と風俗画—女性をめぐる眼差し—」『非文字資料研究』No.5、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年9月

佐々木 睦 SASAKI Makoto

共同研究員（2003年度～2007年度）

1班 課題3

【著書】

- 1 『東アジア生活絵引 中国江南編』共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、

2008年2月

【論文】

- 1 「潮州開元寺大雄宝殿石欄浮彫初探—初期西遊記物語関連図像を中心に—」『人文学報』363、東京都立大学人文学部、2005年3月
- 2 「火龍太子考」『饗餐』12、中国人文学会、2004年9月

【その他】

- 1 「楊貴妃になりたかった男たち—『点石斎画報』に見る〈女装くん〉」『非文字資料研究』No.13、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年9月
- 2 「『姑蘇繁華図』をめぐる旅—研究会開催にいたる経緯—」『図像から読み解く東アジアの生活文化』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年6月
- 3 「中国図像学という迷宮」『非文字資料研究』No.4、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年6月

須山 聡 SUYAMA Satoshi

共同研究員（2003年度・2005年度）

3班

【論文】

- 1 「韓国におけるコロニアルタウンの景観—同化と異化、保存・利用・破壊—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 2 「渋沢フィルムの現地比定—奄美大島を事例として—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

【その他】

- 1 「風景印にみる地域の提示」『非文字資料研究』No.3、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

富井 正憲 TOMII Masanori

共同研究員（2003年度～2007年度）

3班 課題1・課題3

【論文】

- 1 「在華紡の居住環境について—上海の事例—」大里浩秋、富井正憲『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解読』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 2 「『海外神社』跡地に見る景観の変容とその要因」中島三千男、津田良樹、富井正憲『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解読』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 3 「漢口日本租界の都市空間史」神奈川大学人文学研究叢書22『中国における日本租界』御茶の水書房、2006年3月
- 4 「旧南洋郡島の神社跡地調査報告」富井正憲・中島三千男・大坪潤子・サイモン ジョン『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
- 5 「旧樺太（南サハリン）神社跡地調査報告」藤田庄一、中島三千男、富井正憲『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月
- 6 「アジアの住空間～韓国の空間構成について」日本建築学会空間小委員会、2003年12月
- 7 『新住宅Ⅰ』市ヶ谷出版、2003年10月

【その他】

- 1 「都市景観『いにしえのソウル』の復元」『非文字資料研究』No.17、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年9月
- 2 「サハリン調査ノート」『非文字資料研究』No.1、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年10月

長瀬 一男 NAGASE Kazuo

共同研究員（2003年度、2005年度～2007年度）調査研究協力者（2004年度）

4班

【論文】

- 1 「モーションキャプチャを使った芸能比較研究の試み」 廣田律子・長瀬一男・海賀孝明・岡本浩一『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月

【その他】

- 1 「伝統芸能とデジタル技術の出会い」『非文字資料研究』No.3、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

八久保 厚志 HACHIKUBO Koshi

共同研究員（2003年度～2007年度）

3班 課題1・課題2、4班

【著書】

- 1 Joint authorship, Chapter 9 “Transformation of an Industry Stimulated by Local Economic Growth Policy: The Case of the SHOCHU Industry in Japan.” In Peter W.Daniels & James W. Harrington, eds., *Services and Economic Development in the Asia-Pacific*. UK: Ashgate Publishing Limited. March 2007
- 2 『地域の構造・地域の計画』ミネルバ書房、2006年4月
- 3 『経済のグローバル化と産業地域』原書房、2005年4月
- 4 『日本経済地理読本』第7版、2004年4月
- 5 『環境変化と工業地域』原書房、2004年3月

【論文】

- 1 「近代地主酒造業の形成と展開—本格焼酎地域からの視点（1）—」『人文研究』162号、神奈川大学人文学会、2007年9月
- 2 「景観地理学の一断面—産業景観から読みとれること—」『人間科学研究年報』No.1、神奈川大学人間科学部、2007年3月
- 3 「酒造業における経営近代化の嚆矢とその帰結—会津若松産地における会津酒造株式会社の事例—」『人文学研究所報』No.40、神奈川大学人文学研究所、2007年3月
- 4 「『澁澤写真』の類型化について—景観写真の体系化と空間編成—」『年報 人類文化研究のための

- 非文字資料の体系化』第4号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 5 「『澁澤写真』撮影地再訪に関する覚え書き」『手段としての写真—「澁澤写真」の追跡調査を中心に—」神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 6 「『澁澤写真』の類型化について—景観写真の体系化と空間編成—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第4号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 7 「酒造業における経営近代化の嚆矢とその帰結—会津若松産地における会津酒造株式会社の事例—」『人文学研究所報』No.40、神奈川大学人文学研究所、2007年3月
- 8 「景観地理学の一断面—産業景観から読みとれること—」『人間科学研究年報』第1巻、神奈川大学人間科学部、2007年3月
- 9 「澁澤写真の体系的研究と課題—地理学的視座からの経験—」八久保厚志・平井誠・鄭美愛・藤永豪『非文字資料から人類文化へ—研究参画者論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 10 「景観分析のための郵便資料とその可能性—日本・韓国における非文字資料としての景観切手を中心に—」『人文研究』No.159、神奈川大学人文学会、2006年9月
- 11 「台湾における専売酒造業の成立と展開」『酒文化』第15巻第8号、酒文化研究所、2005年9月
- 12 「写真資料と景観変容—澁澤フィルムの分析にむけて—」『環境と景観の資料化と体系化にむけて』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
- 13 「わが国における伝統的酒造業の革新と持続的成長」『人文学研究所報』No.37、神奈川大学人文学研究所、2004年4月
- 14 「渋沢コレクションの図像解析とその応用案」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月
- 15 「戦前期朝鮮半島における邦人酒造業の地域的展

開と特質』『酒文化』2月号 2004 酒文化研究所』、2004年2月

- 16 “Transformation of an Industry Stimulated by Local Economic Growth Policy: a case of the shochu (liquor) industry in Kyushu, Japan.”
Report of Researches Nippon Institute of Technology.
2004

【その他】

- 1 「『澁澤写真』撮影地再訪に関する覚え書き」『手段としての写真—「澁澤写真」の追跡調査を中心に—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 2 「非文字資料としての景観」『非文字資料研究』No.4、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年6月
- 3 「景色（景観）が変わるということ」『非文字資料研究』No.2、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年12月

原信田 實 HARASHIDA Minoru

共同研究員（2003年度）調査研究協力者（2005年度）3班

【著書】

- 1 『謎解き広重「江戸百」』集英社新書、集英社、2007年4月

【論文】

- 1 「地震の痕跡と『名所江戸百景』の新しい読み方」原信田實・北原糸子、『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム推進会議、2004年

的場 昭弘 MATOBA Akihiro

共同研究員（2003年度～2005年度）事業推進担当者（2006年度・2007年度）

4班、6班

【著書】

- 1 『哲学の歴史—マルクス、ニーチェ、フロイト』共著、中央公論新社、2007年8月
- 2 『マルクスからみたロシア、ロシアから見たマルクス』編著、五月書房、2007年4月

3 『ネオ共産主義論』光文社新書、2006年2月

4 『マルクスに誘われて』垂紀書房、2006年2月

5 『＜近代＞と＜反近代＞の相剋—社会思想史入門』御茶の水書房、2006年1月

6 『戦後六〇年を問い直す』共著、岩波書店、2005年12月

7 *Marx for the 21st Century*、共著、Routledge、2005年10月

8 『マルクスだったらこう考える』光文社、2004年12月

9 《監訳》『メーサロシュ「社会主義か野蛮か」』こぶし書房、177、2004年7月

10 『マルクスを再読する』五月書房、2004年6月

11 『＜帝国＞を考える』編著、双風舎、2004年6月

12 『メガ帝国主義の出現とイスラム・グローバル現象』共著、世界書院、2004年5月

13 『山之内靖対談集「再魔術化する世界」』共著、御茶の水書房、2004年3月

【論文】

- 1 『非文字研究の理論的諸問題』共著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 第2回COE国際シンポジウム報告書『図像・民具・景観 非文字資料から人類文化を読み解く』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 3 第1回COE国際シンポジウム報告書『非文字資料とは何か』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年6月

【報告】

- 1 「プロジェクトの総括に向けて」『非文字資料研究』No.17、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年9月
- 2 「第二回国際シンポジウム 座談会」『非文字資料研究』No.13、2006年7月
- 3 「中国雲南省麗江調査記—東巴文化の今昔—麗江と大理の狭間で考えたこと」『非文字資料研究』No.4、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年6月
- 4 「随筆『非文字資料』と歴史学」『非文字資料研

究』No.3、神奈川大学21世紀COEプログラム
研究推進会議、2004年3月

丸山 宏 MARUYAMA Hiroshi

共同研究員（2003年度～2005年度）

4 班

【論文】

- 1 「台南道教の符篆について—放赦科儀の九龍符命とその歴史を中心に—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 2 「納西東巴古籍訳注全集の資料的価値について」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

【その他】

- 1 「道教の符呪—道教儀礼史における非文字資料研究の可能性をめぐる—」『非文字資料研究』No.8、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年6月

楠本 彩乃 KUSUMOTO Ayano

共同研究員（2004年度）

2 班

【著書】

- 1 『シューフィッター・パチュラー（上級）コース 養成講座テキスト』足と靴と健康協議会、「第3章／フットプリント」2006年3月

【論文】

- 1 Ayano Kusumoto, Takao Suzuki, Hideyo Yoshida and Jinhee Kwon. "Intervention Study to Improve Quality of Life and Health Problems of Community-Living Elderly Women in Japan by Shoe Fitting and Custom-Made Insoles." *Gerontology*. Tokyo, Japan: Research Team for Promoting Independence of the Elderly, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, March 2007
- 2 「第5章／足の形状特性」楠本彩乃ほか共同執筆『平成12年度～15年度科学研究費補助金（基盤研究(A)(1)）研究成果報告書 生業活動に伴う身

体技法と体形の関連性に関する研究(12304051)』、
2007年3月

- 3 「日本人高齢者の生業とソマトタイプ」共同執筆『*Anthropological Sciences*』2006年3月
- 4 「高齢女性の下肢痛や歩行不安の改善に向けた無作為割付け比較介入研究—シューフィッティング指導と足底挿板の効果—」『靴の医学』20、日本靴医学会、2006年3月
- 5 足の形状特性「生業活動に伴う身体技法と体形の関連性に関する研究」第5章(p63-p70)、2004年4月
- 6 「高齢期における足と歩行トラブルに対する介入プログラムの作成—特にインソール調節による対応について—」共同執筆、『厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業「寝たきり予防を目的とした老年症候群発生予防の検診（お達者検診）の実施と評価に関する研究」平成15年度 総括研究報告書』、2004年3月

【その他】

《メディア/雑誌》

- 1 「中高年の靴選び」、『明日の友』婦人之友社、2007年8-9月号

《メディア/TV》

- 1 NHK総合テレビ、「靴の中敷に新機能」、おはよう日本、まちかど情報局2004.2.26
- 2 USEN インターネットTV=Gyao、ビューティー&ヘルス・チャンネル「美人主義#21美脚」、2006年2月

田口 洋美 TAGUCHI Hiromi

共同研究員（2004年度）調査研究協力者（2007年度）

【論文】

- 1 「持続的な狩猟システムの構築に向けて」『狩猟文化シンポジウム報告書：今後の野生動物保護管理のあり方について』、富山県自然保護課、2008年6月
- 2 「『食べて保全』生物多様性の時代を生きる」『季刊東北学』vol.13、東北芸術工科大学東北文化環境センター、2007年11月
- 3 シンポジウム抄録「なぜクマは里に下りるか—

- マタギの本音ー」第18回『ブナ林と狩人の会：マタギサミット』三浦慎吾・佐藤宏之・田口洋美・神崎伸夫ほか『東北文化友の会会報 まんだら』33号、東北芸術工科大学東北文化研究センター、2007年11月
- 4 「撤退のシナリオ」『東北文化友の会会報 まんだら』33号、東北芸術工科大学東北文化研究センター、2007年11月
- 5 研究発表要旨「絵はがき・古写真・ビジュアル資料の映像民俗学的利用と展開：東北芸術工科大学東北文化研究センターの試み」『第22回北方民族文化シンポジウム（国際シンポジウム）北太平洋の文化：北方地方の博物館と民族文化Ⅱ 発表要旨集』北方民族博物館、2007年11月
- 6 「列島の崩れゆくバランスと撤退のシナリオ」『農林経済』時事通信社、2007年11月
- 7 研究発表要旨「春グマ猟の意義と可能性」『第14回日本ツキノワグマ集会 クマを語る集いin山形要旨集』第14回クマを語る集いin山形実行委員会、2007年10月
- 8 「書評『5万キロの壮大な旅の舞台裏』」『山形新聞（朝刊）』山形新聞社、2007年9月
- 9 研究発表要旨「列島開拓と狩猟のあゆみ」『第13回日本野生動物医学会大会プログラム・講演要旨集』日本野生動物医学会、2007年9月
- 10 研究発表要旨「罌の民族誌：東アジアの事例から」『日本民具学会第32回大会研究発表要旨集』日本民具学会第32回大会実行委員会、福島県立博物館、2007年9月
- 11 「『東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究』の目的と到達点」『東北文化友の会会報 まんだら』32号、東北芸術工科大学東北文化研究センター、2007年8月
- 12 「ウサギのいる風景」『月間みんぱく』5、国立民族学博物館、2007年5月
- 13 「マタギ文化を援用した保全型狩猟の可能性」『野生動物との共生に関する研究会報告書：県北地方における野生動物による被害の軽減を目指して』野生動物との共生に関する研究会（福島県県北地方振興局地域連携室）、2007年3月
- 14 「書評『民俗学は元気ですか』」『季刊東北学』vol.10、東北芸術工科大学東北文化センター、2007年2月
- 15 「近代における野生動物資源の開発とそのインパクトー東北日本におけるマタギ集落の事例を中心にー」『国立民族学博物館報告：国際シンポジウム「北東アジアにおける森林 資源の商業的利用と先住民族」報告書』佐々木史郎（編）国立民族学博物館、2006年12月
- 16 「狩人の訓」『岳人』11月（713）号、東京新聞出版局、2006年11月
- 17 Public Event:1. “History of Relationships between Human and Bears in Japan.” 1) The History Traditional Hunting and Expansion of Agricultural Land-Use on The Japanese Archipelago. “17th International Association for bear Research and Management.” Program, Abstracts and Information., Regime in Japan. “17th International Association for bear Research and Management.” Nagano Japan. 2006年10月
- 18 Public Event:1. “History of Relationships between Human and Bears in Japan.” 2) Transformation of the Military Fur Procurement and Traditional Hunting under The Imperial Military. “17th International Association for bear Research and Management.” Program, Abstracts and Information., Regime in Japan. “17th International Association for bear Research and Management.” Nagano Japan. 2006年10月
- 19 Public Event:2. “Japanese Traditional Hunting in Documentary Film.” Traditional Bears Hunting in Akiyamago. “17th International Association for bear Research and Management..” Program, Abstracts and Information., Regime in Japan. “17th International Association for bear Research and Management.” Nagano Japan. 2006年10月
- 20 Public Event:3. “Bears and Hunting in Japanese Lifestyle.” [Interview: Questions and Answers.] “17th International Association for bear Research and Management.” Program, Abstracts and

- Information., Regime in Japan. “17th International Association for bear Research and Management.” Nagano Japan. 2006年10月
- 21 The people worship bears, and then hunt bears. “Understanding Asian Bears to Secure Their Future: Compiled by Japan Bear Network.” Japan Bear Network. 2006年10月
- 22 「狩猟活動の民族誌：重力式罟の復元を通して」『(日本旧石器学会第4回講演・研究発表シンポジウム予稿集) 旧石器時代の狩猟を考える』日本旧石器学会、2006年6月
- 23 「山の絆」『大法輪』5月号、大法輪閣、2006年5月
- 24 「クマを崇め、クマを狩る者」『ビオストーリー』5、生き物文化誌学会、2006年5月
- 25 「変わりつづける日常の風景とところ」『ライブラリー通信』17、東北芸術工科大学図書館、2006年4月
- 26 「映像民俗学の可能性と課題」『東北文化研究センター研究紀要』5、東北芸術工科大学東北文化研究センター、2006年3月
- 27 「宮本常一の膨大な仕事の再評価」『季刊東北学』vol. 6、東北芸術工科大学東北文化センター、2006年2月
- 28 「近代における市場経済化と生業の変化－信濃秋山郷に見られる人為的圧力の後退を中心に－」『季刊東北学』vol. 5、東北芸術工科大学東北文化研究センター、2005年11月
- 29 書評：「世界史的視野から見た見本の『発見』者たち」ヘルベルト・ブルジョウ著『「徳川啓蒙期」の博物学者たち』『季刊東北学』vol. 5、東北芸術工科大学東北文化研究センター、2005年11月
- 30 「映像民俗学の可能性」『季刊東北学』vol. 4、東北芸術工科大学東北文化研究センター、2005年8月
- 31 「自然と人間、その関係の変移」『非文字資料研究』No. 7、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年3月
- 32 『シンポジウム報告書：ツキノワグマとの共存を考える』（共著）長野県松本地方事務所・長野県北安曇地方事務所・中部山岳流域林業活性化センター・長野県林政協議会中部山岳部会、2005年3月
- 33 「アムール川流域少数民族の狩猟漁撈活動」大貫静夫・佐藤宏之（編）『温帯森林狩猟漁民の居住と生業－ロシア極東の民族考古学－』六一書房、2005年2月
- 34 「ウデヘ民族の狩猟活動と季節的変移」大貫静夫・佐藤宏之（編）『温帯森林狩猟漁民の居住と生業－ロシア極東の民族考古学－』六一書房、2005年2月
- 35 「極東アジアにおける狩猟文化の構造と適応」東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻社会文化環境コース学位請求論文、2004年12月
- 36 「ロシア極東少数民族と東北日本のマタギに見られる狩猟の手続き」『動物と儀礼－東アジアの中の日本－國學院大學21世紀COEプログラム国際シンポジウム予稿集』國學院大學21世紀COEプログラム考古学国際シンポジウム実行委員会（編）、2004年11月
- 37 「マタギの現在、そして明日」『Out Rider』vol. 8、学習研究社、2004年10月
- 38 『現代民俗誌の地平 2 権力』赤坂憲雄（編）朝倉書店、2004年7月
- 39 「山の民のまなざし－マタギに学ぶもの－」国際山岳年日本委員会（編）『我ら皆、山の民－国際山岳年から「YAMA NET JAPAN」へー』国際山岳年日本委員会、2004年4月
- 40 「マタギの信仰と狩猟習俗」『東北学（京都造形芸術大学通信教育部テキスト）』京都造形芸術大学、2004年4月
- 41 「マタギ：日本列島における農業の拡大と狩猟の歩み」『地学雑誌／113-(2)（特集号「山岳環境の現状と課題」）』東京地学協会、2004年4月
- 42 「マタギの信仰と狩猟習俗」『東北学への招待』東京造詣芸術大学（編）、角川書店、2004年4月
- 43 「第4章 伝統的クマ猟は持続的に継続することが可能か－山形県小国町の春季マタギ猟の場合－」花井正光・田口洋美・栗城幸介（共著）、

佐藤宏之（編）『小国マタギ 共生の民俗知』農山漁村文化協会、2004年3月

44「第5章 小国マタギの過去と現在」佐藤宏之編『小国マタギ 共生の民俗知』農山漁村文化協会、2004年3月

45「日本列島における狩猟の歴史的展開と技術適応」佐藤宏之（編）『シカ・イノシシ資源の持続的利用に関する歴史動態論的研究報告書』平成13年度～平成15年度科学研究費補助金研究成果報告書、東京大学大学院人文社会系研究科、2004年3月

46「少数民族ウデへにおける狩猟活動の季節的変移—沿海地方クラスヌィ・ヤール村ハバゴの事例を中心に—」大貫静夫（編）『ロシア極東少数民族の伝統的生業と居住形態に関する民族考古学的研究報告書』平成13年度～平成15年度科学研究費補助金研究成果報告書、東京大学大学院人文社会系研究科、2004年3月

47「付編 アムール川中下流域の狩猟漁撈用具」大貫静夫（編）『ロシア極東少数民族の伝統的生業と居住形態に関する民族考古学的研究報告書』平成13年度～平成15年度科学研究費補助金研究成果報告書、東京大学大学院人文社会系研究科、2004年3月

夏宇継 XIA Yuji

共同研究員（2004年度～2007年度）

2班 課題1

【著書】

1《翻訳》『“鬼”之来路—中国的仮面與祭儀』廣田律子著、中華書局、2005年10月

2『大学生の中国語—基礎からステップアップ』共著、金星堂、2005年10月

3『日中辞典』共著、講談社、2004年3月

【論文】

1「東巴教『求寿』儀式に見る東巴經典および東巴舞編」『非文字資料から人類文化へ—研究参画者論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月

2「恢復納西族東巴教求寿儀式的調査」『民間文化

論壇／2006年／第2期／総第148期』中国文学芸術界联合会、2006年4月

3「蘇った納西族東巴教『求寿』儀式」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月

4《翻訳》「鬼神仮面的造型—從日本與中国的事例看咒眼的表現」廣田律子著『域外民俗学鑑要』寧夏人民出版社、2005年3月

【その他】

1「納西族東巴教『求寿』儀式調査」『非文字資料研究』No.8、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年6月

能登 正人 NOTO Masato

共同研究員（2004年度～2007年度）

4班、6班

【論文】

1「民俗学研究のための情報発信」『地域情報学の構築—新しい知のイノベーションへの道』能登正人、木下宏揚、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月

2 Joint authorship (M.Noto, D.Hashimoto, etc.). “A Search Method for Reducing Local Cost in Distributed Constraint Optimization Problem.” Proc. of *The Third IASTED International Conference on Advances in Computer Science and Technology* (ACST2007). April 2007

3「DSRのキャッシュ機能を活かした省電力フレンジング手法」有川隼、能登正人、電子情報通信学会技術研究報告、2007年3月

4「周波数割り当て問題における制約違反の分散を考慮した非同期分散最適化アルゴリズム」橋本大樹、能登正人、電子情報通信学会技術研究報告、2007年3月

5 Joint authorship (M.Noto, D.Hashimoto, etc.). “Asynchronous Search Algorithm Considering Local Load in Distributed Constraint Optimization Problem.” Proc. of *The 2006 International Technical Conference on Circuits/Systems*,

- Computers and Communications*. July 2006
- 6 J.Arikawa and M.Noto. "Optimization Method for Low-power Flooding of Route Request in Ad-hoc Networks." Proc. of *The 2006 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications*, 3. July 2006
 - 7 「オントロジー理論に基づく非文字資料のデータ化可能性の検討」能登正人、木下宏揚『非文字資料とはなにかー人類文化の記憶と記録』神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2006 年 6 月
 - 8 「マルチホップ無線ネットワークにおける階層化通信モデルの構築」永松大和、能登正人、電子情報通信学会技術研究報告、2006 年 3 月
 - 9 M.Noto and M.Kurihara. "Experimental Study of Hybrid-Type Distributed Maximal Constraint Satisfaction Algorithm." Proc. of *The Second IASTED International Conference on Advances in Computer Science and Technology* (ACST2006). January 2006
 - 10 Y.Nagamatsu and M.Noto. "Performance Evaluations for Clustered Wireless Ad-Hoc Networks." Proc. of *The 2005 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications* (ITC-CSCC2005). July 2005
 - 11 J.Arikawa and M.Noto. "Communicability Experiments for Different Node Densities in Mobile Ad-Hoc Networks." Proc. of *The 2005 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications* (ITC-CSCC2005). July 2005
 - 12 H.Endo and M.Noto. "Quantitative Evaluation of Communication Traffic of Mobile Agents in Distributed Constraint Satisfaction Model" CD-ROM. Proc. of *2004 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics* (SMC2004). October 2004
 - 13 「エージェントの移動性を考慮したエージェント間通信のトラフィック量に関する実験と評価」能登正人、沼澤政信『電気学会論文誌 C』124、(3)、2004 年 3 月
 - 14 Joint authorship (M.Ando, M.Noto, etc.). "Empirical Evaluation of Distributed Maximal Constraint Satisfaction Method" CD-ROM. Proc. of *2003 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics* (SMC2003). October 2003
 - 15 H.Endo and M.Noto. "A Word-of-Mouth Information Recommender System Considering Information Reliability and User Preferences" CD-ROM. Proc. of *2003 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics* (SMC2003). October 2003
- 【その他】
- 1 「モバイルエージェント間通信のトラフィック」『非文字資料研究』No.5、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2004 年 9 月
- 彭 国躍 PENG Guoyue
- 共同研究員 (2004 年度)
- 2 班
- 【論文】
- 1 「中国語の謝罪発話行為のコンテキスト制約ー大学生の言語意識調査に基づいて」『中国語学研究・開篇』vol.24、好文出版、2005 年 6 月
 - 2 「現代日本語の謝罪発話行為の類型と機能」『日本語学』4 月号、明治書院、2005 年 4 月
 - 3 「中国の言語政策とイデオロギーー文字革命の発生と挫折」『月間言語』2005 年 3 月号、大修館書店、2005 年 3 月
 - 4 「中国語の謝罪発話行為の研究ー『道歉』のプロトタイプ」『語用論研究』第 5 号、日本語用論学会、2003 年 12 月
- 【その他】
- 1 「色彩意味論研究の社会言語学的アプローチ」『非文字資料研究』No.7、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2005 年 3 月
- 増野 恵子 MASHINO keiko
- 共同研究員 (2004 年度) 調査研究協力者 (2005 年度)

3 班

【論文】

- 1 「志賀重昂『日本風景論』挿図に関する報告」『非文字資料から人類文化へ—研究参画者論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「見える民族・見えない民族—『輿地誌略』の世界観」『版画と写真—19世紀後半 出来事とイメージの創出—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 3 「Eruption of Bandai-san—図版に関するノート」『1888磐梯山噴火報告書』中央防災会議・災害教訓の継承に関する専門調査会、2005年3月
- 4 「明治中期の災害画像を考える—メディア史の視点から—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

【その他】

- 1 《研究発表要約》「『輿地誌略』のイメージ・ソースについて」『近代画説』16号、明治美術学会、2007年12月
- 2 《項目解説》「学校絵葉書」「博覧会絵葉書」「百貨店絵葉書」ほか『彷彿月刊／2007年6月号「特集：絵葉書国人物誌[大正・昭和初期編]」』彷徨舎、2007年5月
- 3 「メディアイベントと絵はがき」『京都精華大学情報館特別展示企画「掌の上の芸術～明治・大正の絵葉書世界」展パンフレット』、2006年11月
- 4 《項目解説》「梨本宮伊都子」「浅井忠」「藤島武二」「宮武外骨と滑稽新聞社『絵葉書世界』」ほか『彷彿月刊／2006年6月号「特集：絵葉書国人物誌[明治編]」』彷徨舎、2006年5月
- 5 「近代天皇のイメージ形成—視覚情報分析の可能性について—」『非文字資料研究』No.5、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年9月

鈴木 廣之 SUZUKI Hiroyuki

共同研究員（2005年度）

3 班

【著書】

- 1 『名所風俗画』491、至文堂（『日本の美術』491冊）、2007年4月
- 2 『好古家たちの19世紀—幕末明治における《物》のアルケオロジー』吉川弘文館、2003年10月

【論文】

- 1 「変貌する明治の図録」『版画と写真—19世紀後半 出来事とイメージの創出—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 2 「明治期における物の価値と蜷川式胤」『明治聖徳記念学会紀要』41号、明治聖徳記念学会、2005年6月
- 3 「文化財保護と博物館」『美術フォーラム21』11号、醍醐書房、2005年2月
- 4 「1879年のW・アンダーソン『日本美術の歴史』」『美術研究』383号、東京文化財研究所、2004年8月

前田 禎彦 MAEDA Yoshihiko

共同研究員（2005年度）事業推進担当者（2006年度・2007年度）

1 班 課題1

【著書】

- 1 *Multilingual Version of Pictopedia of Everyday Life in Medieval Japan compiled from picture scrolls*, vol.1, 『マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活 絵引』第1巻（本文編）（語彙編）共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 *Multilingual Version of Pictopedia of Everyday Life in Medieval Japan compiled from picture scrolls*, vol.2, 『マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活 絵引』第2巻（本文編）（語彙編）共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年6月

【論文】

- 1 「看督長小考—摂関期の官司と社会集団—」『国史学』第191号、国史学会、2007年3月
- 2 「平安時代の社会と氷見」『氷見市史』1 通史

編 古代・中世・近世 第四章第一節、氷見市史
編さん委員会、2006年3月

- 3 『『看督長見不注進状』（九条家本『延喜式』紙背文書）に関する基礎的検討』『人文研究』157号、
神奈川大学人文学会、2005年12月

【その他】

- 1 《対談》「第3回国際シンポジウムにむけて―場の記憶・からだの記憶 非文字資料研究の新天地―」
『非文字資料研究』No.18、神奈川大学21世紀C O Eプログラム研究推進会議、2007年12月
- 2 《書評》「長谷山彰著『日本古代の法と裁判』」
『法制史研究』55、法制史学会、2006年3月
- 3 「古代地域史研究と出土史料―『加賀郡勝示札』の史料性格―」
『非文字資料研究』No.9、神奈川大学21世紀C O Eプログラム研究推進会議、
2005年9月
- 4 「2004年度日本史研究会大会報告批判 古代支部会吉川聡報告に関する覚書」
『日本史研究』512号、日本史研究会、2005年4月
- 5 《書評》「佐藤全敏著『東大寺別当の成立』」
『法制史研究』54、法制史学会、2005年3月

刈田 均 KARITA Hitoshi

共同研究員（2006年度・2007年度）

5 班

【その他】

- 1 《コラム》「私の試みた、つたない『実験』」
『非文字資料研究』No.12、神奈川大学21世紀C O E
プログラム研究推進会議、2006年6月

河野 眞知郎 KAWANO Shinjiro

調査研究協力者（2005年度）共同研究員（2006年度）

3 班 課題 2

【著書】

- 1 『暮らしの考古学シリーズ②食べ物の考古学』共
著、学生社、2007年10月

【論文】

- 1 「中世都市鎌倉の環境―地形改変と都市化を考え
る―」
『年報 人類文化研究のための非文字資料の
体系化』第4号、神奈川大学21世紀C O Eプロ

グラム研究推進会議、2007年3月

【その他】

- 1 「都市鎌倉・道沿いの町屋跡荒井猫田遺跡と比
較」
『中世の宿と町』高志書院、2007年7月
- 2 「元八幡と鎌倉の浜辺」
『源氏・武門の覇者（別冊歴史読本）』新人物往来社、2007年7月
- 3 「鎌倉武士の鎌倉ぐらし」
『三浦一族研究』第11号、三浦一族研究会、2007年3月
- 4 「政権都市『鎌倉』―考古学的研究この十年―」
『政権都市／中世都市研究』9、新人物往来社、
2004年9月
- 5 「鎌倉における武士の生活」
『鎌倉幕府と葛西氏』名著出版、2004年5月

佐々木 長生 SASAKI Takeo

共同研究員（2006年度・2007年度）

4 班

【論文】

- 1 「非文字資料としての農書・風俗帳―『会津農書』
を中心に―」
『地域情報学の構築―新しい知のイノ
ベーションへの道』神奈川大学21世紀C O Eプ
ログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「『会津農書』にみる焼畑と火耕」
『李刊東北学』東北芸術工科大学東北文化研究センター、2007年
4月
- 3 「菅江真澄と民具学―東北地方の民具研究の一方
法―」
『真澄学』2、東北芸術工科大学東北文化研
究センター、2005年11月
- 4 「満州開元寺大雄宝殿石欄浮彫初探」
『人文学報』363、東京都立大学人文学部、2005年3月

【その他】

- 1 「只見町の生業と民具―雪・山・川をつくる世界
―」
『非文字資料研究』No.14、神奈川大学21世紀
C O Eプログラム研究推進会議、2006年12月
- 2 「博物館と体験学習」
『非文字資料研究』No.14、
神奈川大学21世紀C O Eプログラム研究推進会
議、2006年12月

榎 美香 ENOKI Mika

共同研究員（2006年度・2007年度）

5 班

【著書】

- 『民俗文化財—保護行政の現場から—』、鹿谷 勲・長谷川嘉和・樋口昭編（共著）、岩田書院、2007年10月

【論文】

- 「屋敷内に納める絵馬～房総東部の小絵馬習俗（1）」『民具マンスリー』39巻5号、神奈川大学日本常民研究所、2006年8月
- 「安房地方の郷土芸能」『千葉県立安房博物館企画展図録「安房の郷土芸能」』千葉県立安房博物館、2006年7月
- 「我孫子市中峠の『四季耕作図』について」『千葉県立関宿城博物館研究報告』8、千葉県立関宿城博物館、2004年3月
- 「民俗学を重視している博物館④『千葉県立房総のむら』」『講座 日本の民俗学11 民俗学案内』雄山閣、2004年3月
- 「将門伝説の系譜～くり返す集約と流布～」『千葉県立大利根博物館・千葉県立関宿城博物館共同企画展図録「英雄・怨霊 平将門」』千葉県立関宿城博物館、2003年5月

【その他】

- 《書評》「天野正子・桜井厚著『モノと女』の戦後史」『民具研究』128号、日本民具学会、2003年9月

津田 良樹 TSUDA Yoshiki

調査研究協力者（2005年度）共同研究員（2006年度・2007年度）

3 班 課題 3

【著書】

- 『建築のすべてがわかる本』（共著）成美堂、2007年1月
- 『空間デザイン事典』（分担執筆）、日本建築学会編、井上書院、2006年7月
- 『写真でみる民家大事典』（分担執筆）、日本民俗建築学会編、柏書房、2005年4月

【論文】

- 「中国江南沿海村落の民家について—浙江省寧波

象山県東門島の民家を中心に」『日本建築学会計画系論文集』第625号、2008年3月

- 「『満洲国』建国忠霊廟と建国神廟の建築について—両廟の造営決定から竣工にいたる経過とその様相—」『非文字資料から人類文化へ—研究参画者論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 「仏導寺所蔵『木造徳川家康座像』を安置する厨子について」『大和市研究』33、大和市役所、2008年1月
- 「『海外神社』跡地に関するデータベース」構築について」津田良樹、中島三千男ほか、『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解説』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 「『海外神社』跡地に見る景観の変容とその要因」中島三千男、津田良樹ほか『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解説』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 「明治34-35年の神奈川県下の農村における住環境と家財道具—神奈川縣農会による村是調査を中心に—」『日本建築学会計画系論文集』第621号、2007年11月
- 「幻の『満洲国』建国神廟を復原する」『非文字資料研究』No.16、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年6月
- 《調査報告》「旧満洲国の『満鉄附属地神社』跡地調査からみた神社の様相」津田良樹、中島三千男ほか『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第4号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 「二神島に現存する民家と文献資料とを総合すれば」『海の民 ふたがみ』（9）、二神系譜研究会、2006年11月
- 《調査報告》「旧朝鮮の神社跡地調査とその検討—全羅南道、和順郡を中心に—」津田良樹、中島三千男ほか『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 「漁村集落の民家と大工道具」『中国江南沿海村

落民俗誌』Ⅰ、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2006年3月

12 「漁村集落の民家」『中国江南沿海村落民俗誌』Ⅱ、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2006年3月

13 「明治八年の『家券下図簿』からみた西国街道大山崎の民家と町並みについて」『生活文化史』48号、日本生活文化史学会、2005年9月

14 「家作—幕末の文書にみる家作の—様相—」『近世鳩山図誌』、鳩山町、2005年3月

【その他】

1 『大本山総持寺祖院建物調査報告書』大本山総持寺祖院、2007年3月

2 「漁村集落の民家（若山民俗誌）」『中国江南沿海村落の民俗誌的研究』、平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究(A)）研究成果報告書（研究代表者：福田アジオ）、2006年3月

3 「漁村集落の民家と大工道具（東門島民俗誌）」『中国江南沿海村落の民俗誌的研究』、平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究(A)）研究成果報告書、2006年3月

4 「鳩山の民家」『近世鳩山図誌』を執筆、鳩山町、2005年3月

5 旧小倉家住宅復原整備工事の監修、大和市、2004年4月

6 旧小倉家住宅復原整備工事実施設計の監修、大和市、2003年4月～2004年3月

平井 誠 HIRAI Makoto

共同研究員（2006年度・2007年度）

4 班

【著書】

1 『人口減少と地域—地理学的アプローチ』石川義孝編、「高齢者による都道府県間移動の地域性」京都大学学術出版会、2007年9月

2 『地域の構造と地域の計画』宮川泰夫、山下潤編著、「人口からみた日本の地域構造」ミネルヴァ書房、2006年4月

【論文】

1 「濫澤写真の体系的な研究と課題—地理学的視座か

らの経験—」八久保厚志・平井誠・鄭美愛・藤永豪共著『非文字資料から人類文化へ—研究参画者論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月

2 「1990年代後半における高齢者の都道府県間移動の特性」『人間科学研究年報』神奈川大学人間科学部、2007年3月

3 「American Fact Finderを用いた統計データの利用」『統計』第57巻第2号、日本統計協会、2006年8月

【その他】

1 「写真から人口現象を読み解く」『非文字資料研究』No.15、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月

鄭 美愛 JUNG Mee Ae

共同研究員（2007年度）

3 班 課題1

【論文】

1 「濫澤写真の体系的な研究と課題—地理学的視座からの経験—」八久保厚志、平井誠、鄭美愛、藤永豪『非文字資料から人類文化へ—研究参画者論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月

青木 俊也 AOKI Toshiya

COE教員（非常勤講師）（2004年度～2007年度）

4 班、5 班

【著書】

1 『実験展示「あるく—身体記憶—」をつくる』共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月

【論文】

1 「生活再現展示の思考」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第4号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月

2 「現代・生活を展示する—団地2DK生活再現展示のその後」国立歴史民俗博物館編『歴史展示とは何か』アム・プロモーション、2003年11月

- 3 「生活再現展示をつくる思考—展示利用者調査の試行—」『松戸市立博物館紀要』第10号、松戸市立博物館、2003年9月

【その他】

- 1 「戦後松戸の生活革新」『全国地域博物館図録総覧』地方史研究協議会編、2007年10月
- 2 「戦後生活再現展示の思考」『武蔵大学人文学会雑誌』第39巻第1号、2007年7月
- 3 「『昔のくらし』の展示すること」『非文字資料研究』No.14、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年12月
- 4 「家族生活と住まい」『民俗学講義—生活文化へのアプローチ』谷口貢・松崎憲三編著、八千代出版、2006年10月
- 5 「戦後生活におけるテレビの記憶と記録」、『季刊道具学』12号「特集 むる道具」、道具学会、2005年11月
- 6 「松戸市立博物館における2DK生活再現展示」、「住宅」特集「住まいの記憶と継承」、日本住宅協会、2005年5月
- 7 「展示における昔を考える」『非文字資料研究』No.6、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

中村 ひろ子 NAKAMURA Hiroko

COE教員（特任教授）（2004年度～2007年度）
1班 課題2、5班

【著書】

- 1 『実験展示「あるく—身体の記憶—」をつくる』共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 『日本近世生活絵引 東海道編』共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月

【論文】

- 1 「博物館資料の現在」『歴史民俗資料学研究』第10号、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2005年3月
- 2 「喪服の近代—死にかかわる衣服をめぐる—」『衣と風俗の100年』ドメス出版、2003年10月

【その他】

- 1 《対談》「第3回国際シンポジウムにむけて—場の記憶・からだの記憶 非文字資料研究の新地平—」『非文字資料研究』No.18、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 2 「実験展示班の企て『あるく—身体の記憶—』について」『非文字資料研究』No.17、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年9月
- 3 「博物館資料は誰のもの」『非文字資料研究』No.6、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

浜田 弘明 HAMADA Hiroaki

COE教員（非常勤講師）（2004年度～2007年度）
3班 課題1、5班

【著書】

- 1 『相模原市史現代資料編』（共著）「第三章・第五章・第六章」執筆、相模原市、2008年3月
- 2 『高度専門職学芸員養成—大学院における養成プログラムの提言—』共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年2月
- 3 『郷土史大辞典』項目分担執筆、朝倉書店、2005年6月
- 4 『大和市の地名』（共著）、大和市教育委員会、2005年3月
- 5 『相模原市史現代図録編』（共著）、相模原市総務部総務課市史編さん室、2004年11月

【論文】

- 1 「学校博物館の現状と今後の可能性—学芸教諭の誕生に向けて—」鷹野光明・青木豊・浜田弘明『全国大学博物館学講座協議会研究紀要』第10号、全国大学博物館学講座、2008年3月
- 2 「相模の道と石仏—石仏で地名を確かめる—」『藤沢地名の会会報』第65号、藤沢地名の会、2007年9月
- 3 「博物館学芸員課程における実践的教育と今後の展望」『Obirin Today』7号、桜美林大学教育センター群、2007年3月
- 4 「学生と手がけた記念展—博物館実習『みんなでつくる60周年記念展』—」『博物館学芸員課程年

報』第8号、桜美林大学、2007年3月

5 「指定管理者制度導入に伴う学芸活動の諸問題」『地方史研究』56巻3号、地方史研究協議会、2006年12月

6 「少人数教育による桜美林方式の博物館学芸員養成」『Obirin Today』7号、桜美林大学教育センター群、2006年12月

7 「景観研究資料としての「渋谷フィルム」の今日的意義—韓国南部を例に—」『図像・民具・景観 非文字資料から人類文化を読み解く』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月

8 「『渋谷フィルム』撮影地の景観変貌—韓国・蔚山を事例として—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月

9 「市史としての図録—相模原市史『現代図録編』の編さんから—」『相模原市史ノート』第2号、相模原市、2005年3月

10 「相模・南多摩の撚糸水車—半原撚糸を中心に—」『多摩のあゆみ』第115号、たましん地域文化財団、2004年12月

11 「『渋谷フィルム』の景観分析とその課題—朝鮮半島多島海を事例として—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

12 「写真資料と景観変容—湊澤フィルムの分析にむけて—」浜田弘明・八久保厚志『環境と景観の資料化と体系化に向けて』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

13 「桜美林大学における博物館学芸員課程の現在」『博物館学芸員課程年報』第5号、桜美林大学、2004年3月

【その他】

1 「観覧料という心的バリア」『非文字資料研究』No.13、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年9月

2 《ニュース》「桜美林大学所蔵『鶴田文庫』について」『学会ニュース』80号、全日本博物館学会、

2006年9月

3 「鶴田博物館学の文献コレクション」『Museum Management Today』8、内田洋行知的生産性技術研究所、2006年2月

4 「博物館空間に広がる景観的世界」『非文字資料研究』No.6、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

網野 暁 AMINO Satoru

COE研究員（PD）（2003年度・2004年度）

【論文】

1 「非文字の資料と資料化」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

2 「非文字資料研究についての一考察」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

【その他】

1 「韓国ソウルをたずねて…」『非文字資料研究』No.2、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、30、2003年12月

富澤 達三 TOMIZAWA Tatsuzo

COE研究員（PD）（2003年度・2004年度）調査研究協力者（2005年度～2007年度）

【著書】

1 『文明開化の錦絵新聞—東京日々新聞・郵便報知新聞全作品—』国書刊行会、2008年1月

2 『日本近世生活絵引 東海道編』共編著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月

3 『錦絵のちから 時事的錦絵とかわら版』文生書院、2004年2月

4 『NHK学園通信講座・はじめての古文書 サブテキスト「古文書の世界」』共著「第2章 都市・流通の文書」三省堂、2003年8月

【論文】

1 「非文字資料のデジタル化と歴史研究 近世画像

資料を例として」『非文字資料研究の可能性—若手研究者研究成果論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月

- 2 「黒船かわら版とそれ以前」『東京大学アメリカ太平洋研究』vol.5、東京大学大学院総合文化研究所付属アメリカ太平洋地域研究センター、2005年3月
- 3 「『黒船かわら版』の情報」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
- 4 「歴史資料のデジタル化 画像資料を例として」『国立歴史民俗博物館研究報告』第117集、2004年3月

【その他】

- 1 「文久2年の『はしか絵』」『非文字資料研究』No.17、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年9月
- 2 《新刊紹介》『絵で見る歴史シリーズ・明治ものはじまり事典』『絵で見る歴史シリーズ・明治ものの流行事典』『地方史研究』323号、2006年10月
- 3 「米国博物館事情 美術館・大学図書館・暴力のあと」『非文字資料研究』No.7、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年3月
- 4 「自著をかたる『錦絵のちから 時事的錦絵とかわら版』」『非文字資料研究』No.5、神奈川大学21世紀プログラム研究推進会議、2004年9月
- 5 「東京都写真美術館を訪れて…」『非文字資料研究』No.2、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2003年12月

藤永 豪 FUJINAGA Go

COE研究員（PD）（2003年度～2005年度）調査研究協力者（2006年度）

【論文】

- 1 「高等学校地歴科地理分野における自然地理領域の学習内容について」『佐賀大学教育実践研究』No.23、2007年3月
- 2 「澁澤写真の体系的研究と課題—地理学的視座か

らの経験—」八久保厚志・平井誠・鄭美愛・藤永豪『非文字資料から人類文化へ—研究参画者論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月

- 3 「北京市都心部および郊外農山村の景観変容」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 4 「変貌する北京の農山村」『地理』9月号通巻602号、古今書院、2005年9月
- 5 「中山間地域における住民の環境利用と生活空間の変化—写真にみる景観の変遷をとおして—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
- 6 「写真資料をもとにした景観分析に関する若干の試論—佐賀平野における村落景観を事例に—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

【その他】

- 1 「景観資料としての写真をめぐって」『「景観」と「環境」についての覚書』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 2 「大学生の環境認識—自然地理学の講義現場から—」『非文字資料研究』No.18、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年12月
- 3 「『澁澤写真』の現場を歩いて」『手段としての写真—「澁澤写真」の追跡調査を中心に—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 4 「景観分析における資料としての写真の可能性」『神奈川大学21世紀COEプログラムシンポジウム報告4 図像・民具・景観 非文字資料から人類文化を読み解く』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 5 「むらの風景が語るもの—世界遺産白川郷を訪ねて—」『非文字資料研究』No.11、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月

- 6 「変貌する北京の農山村」『地理』vol.50 No.9、古今書院、2005年9月
- 7 『図像文献書誌情報目録』共編、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年3月
- 8 「北京—改革開放が生み出す景観—」『非文字資料研究』No.7、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年3月
- 9 「佐賀平野の干拓集落の景観を観察して」『非文字資料研究』No.3、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

大西 万知子 ONISHI Machiko

COE研究員（RA）（2003年度・2004年度）

【論文】

- 1 「視覚に障害を持つ人に配慮された触れる展示のための展示解説の可能性」『人文科学／第10巻2号』千葉県立中央博物館、2008年3月
- 2 「人類の記憶、ヒロシマ」『非文字資料研究の可能性—若手研究者研究成果論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 3 「広島における記憶と身体のかかわりについての一考察」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
- 4 「博物館におけるモノとヒトとのかかわりについての一考察—広島平和記念資料館の事例から—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議2004年3月

【その他】

- 1 「国際シンポジウム参加報告・国際シンポジウムを終えて」『非文字資料研究』No.14、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年11月
- 2 「アジア・ヨーロッパ・ラテンアメリカの情報発信（展示）の発達比較—日本から一番遠い国、ブラジルでは—」『非文字資料研究』No.13、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年9月

- 3 「海外博物館事情・威厳と挑戦—大英博物館の非文字資料から広がる風景—」『非文字資料研究』No.4、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年6月

中町 泰子 NAKAMACHI Yasuko

COE研究員（RA）（2003年度・2004年度）調査研究協力者（2005年度）

【論文】

- 1 「菓子製法書『意地喜多那誌』を中心とした江戸時代の菓子作り道具」『和菓子』15号、株式会社虎屋虎屋文庫、2008年3月
- 2 「諸職風俗図像と『新撰百工図』」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第2号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月
- 3 「図像から考えるモノと技術—伏見の煎餅職人の道具と技術から—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第1号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月
- 4 「辻占菓子についての一考察—運をひらく・縁をむすぶ—」『和菓子』11号、株式会社虎屋虎屋文庫、2004年3月

【その他】

- 1 《研究紹介記事》Jennifer Lee. “Solving a Riddle Wrapped in a Mystery Inside a Cookie.” *The New York Times*. January 16, 2008
- 2 「狐がくわえた辻占—移動と芸による占紙販売」『見世物』4号、見世物学会、2007年11月
- 3 《翻刻》「意地喜多那誌」『歴史民俗資料学研究』第12号、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2007年3月
- 4 《研究紹介記事》Eric Prideaux. “What's really ‘Chinese’ about Fortune Cookies.” *The Japan Times*. April 16, 2006
- 5 「煎餅のつやと道具のつや」『非文字資料研究』No.3、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年3月

フレデリック・ルシーニュ Frédéric LESIGNE

C O E 研究員（R A）（2003 年度・2006 年度）調査
研究協力者（2005 年度・2007 年度）

6 班

【論文】

- 1 「フランスにおける柳田国男の紹介と評価」『歴史民俗資料学研究』第 11 号、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2006 年 3 月

【その他】

- 1 「野外民族博物館リトルワールドにおける『民族』概念についての初歩的レポート」『非文字資料研究』No.15、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2007 年 3 月
- 2 《書評》「鳥越皓之著『柳田民俗学のフィロソフィー』」『比較民俗研究』20 号、筑波大学比較民俗研究、2005 年 10 月
- 3 《仏訳》“*Pardons et tromenies de Bretagne*, Sekizawa Mayumi et Shintani Takanori”『国立歴史民俗博物館研究報告』第 108 集、国立歴史民俗博物館、2005 年 7 月
- 4 《仏訳》“*Musashino et les debats autour de la recherche sur les terroirs*”, Iketani Takumi『EBISU』34 号、日仏会館、2004 年 10 月
- 5 「フランス博物館の情報戦略」『非文字資料研究』No.3、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2004 年 3 月

大坪 潤子 OTSUBO Junko

C O E 研究員（R A）（2004 年度）

【論文】

- 1 「騎馬像の居場所」『非文字資料研究の可能性－若手研究者成果論文集－』神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2008 年 3 月
- 2 「高橋是清関連資料をめぐって－テーマ展『高橋是清－ダルマ宰相と港区』展示資料より」『研究紀要』8 号、港区立港郷土資料館、2005 年 3 月
- 3 「銅像の建つ場についての考察」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第 2 号、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2004 年 12 月

【その他】

- 1 「港区人物誌 三 高橋是清」共編著、港区教育委員会、2007 年 3 月
- 2 《書評》「富澤達三『錦絵のちから幕末の時事的錦絵とかわら版』」『歴史民俗資料学研究』第 10 号、神奈川大学歴史民俗資料学研究科、2005 年 3 月
- 3 「南洋群島に神社をたずねて」『非文字資料研究』No.6、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2004 年 12 月
- 4 《調査報告》「旧南洋群島の神社跡地調査報告」富井正憲・中島三千男・大坪潤子・サイモン ジョン『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第 2 号、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2004 年 12 月
- 5 「戦前の文献にもとづく作品台帳作成と所在調査（全国調査）報告」共著、調査・編集を担当『屋外彫刻調査保存研究会会報』3 号、屋外彫刻調査保存研究会、2004 年 11 月

樫村 賢二 KASHIMURA Kenji

C O E 研究員（R A）（2004 年度）C O E 研究員（P D）（2005 年度・2006 年度）

3 班 課題 1

【著書】

- 1 『図像研究文献目録』共編、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2005 年 9 月

【論文】

- 1 「オートバイ宅配便（クイックサービス）にみる韓国社会」『非文字資料研究の可能性－若手研究者研究成果論文集－』神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2008 年 3 月
- 2 「ユニバーシティ・ミュージアムと学芸員養成課程」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第 4 号、神奈川大学 21 世紀 C O E プログラム研究推進会議、2007 年 3 月
- 3 「大名佐竹氏の国替えと民俗文化の伝播－鹿島信仰と『さらら』の秋田への伝播伝承－」『茨城の民俗』44 号、茨城民俗学会、2005 年 11 月
- 4 「近津神社の『お杵廻し』に見る穀霊」『日本民

俗学』244号、日本民俗学会、2005年11月

【その他】

- 1 「鳥取県における民具調査の取組み」『民具マンスリー』40巻5号、神奈川大学日本常民文化研究所、2007年8月
- 2 「韓国を少し知るヒント—自転車とオートバイ—」『非文字資料研究』No.11、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 3 「周期祭の背景」『非文字資料研究』No.6、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

彭偉文 PENG Weiwén

COE研究員（RA）（2004年度～2007年度）

1班 課題3

【著書】

- 1 『東アジア生活絵引 中国江南編』共著、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年2月

【論文】

- 1 「『姑蘇繁華図』における女性の世界」『非文字資料研究の可能性—若手研究者研究成果論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「中国における獅子舞の娯楽性について—日本の獅子舞に照らして—」『季刊 東北学』第12号、2007年7月
- 3 「中国の獅子舞と日本の獅子舞の比較考察—中国における獅子舞の娯楽性を中心に—」『東アジアのなかの日本文化に関する総合的な研究 平成14年度～平成18年度私立大学学術研究高度化推進事業「オープンリサーチセンター整備事業」研究成果報告書』I、2007年3月
- 4 「広州における『私夥局』の源流」『比較民俗研究』21号、2007年3月
- 5 「『姑蘇繁華図』に見る清代前期の江南地域における紡織業及びその流通—地方文献に照らして—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月

- 6 「広州周辺の『遊龍深親』慣行と地域社会—獺徳村の事例を通して—」『比較民俗研究』20号、2005年10月

【その他】

- 1 《共訳》*Multilingual Version of Pictopedia of Everyday Life in Medieval Japan compiled from picture scrolls*, vol.1, 『マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引』第1巻（語彙編）、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 《共訳》*Multilingual Version of Pictopedia of Everyday Life in Medieval Japan compiled from picture scrolls*, vol.2, 『マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引』第2巻（語彙編）、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年6月
- 3 「変化しつつある文化遺産—広東醒獅の現状について—」『非文字資料研究』No.15、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 4 「獅子で付き合う、獅子で競う—広東の醒獅—」『非文字資料研究』No.6、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

丸山 泰明 MARUYAMA Yasuaki

COE研究員（PD）（2005年度・2006年度）

5班

【著書】

- 1 『都市の暮らしの民俗学2—都市の光と闇』新谷尚紀・岩本通弥編 吉川弘文館、「モニュメントを眼ざしの近代—遊就館をめぐる—」、2006年11月
- 2 『戦死者のゆくえ—語りと表象から』川村邦光編著、青弓社、「八甲田山雪中行軍遭難事件と靖国神社合祀のフォークロア」、2003年11月

【論文】

- 1 「文化遺産化する『景観』—観光旅行、博覧会、博物館の19-20世紀」『非文字資料研究の可能性—若手研究者研究成果論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「兵士の死をめぐる展示—遊就館における死者の

展示の誕生と展開」『日本学報』第26号、大阪大学文学部日本学研究室、2007年3月

- 3 「文化政策としての民俗博物館—国民国家日本の形成と『国立民俗博物館』構想」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、2006年3月
- 4 「民俗展示の史的展開—国立民俗博物館計画史における野外博物館構想の系譜」『近代日本における宗教とナショナリズム、国家をめぐる総合的研究』大阪大学、2006年3月
- 5 「モニュメントを記憶—八甲田山雪中行軍遭難事件をめぐる記憶の編成」『日本民俗学』第238号、日本民俗学会、2004年5月
- 6 「八甲田山雪中行軍遭難事件と「勇士」の表象」『日本学報』第23号、大阪大学文学部日本学研究室、2004年3月

【その他】

- 1 「デンマークの野外博物館」『非文字資料研究』No.12、2006年6月
- 2 「同時代を見る眼と博物館」『非文字資料研究』No.9、26、2005年9月

王 京 WANG Jing

C O E 研究員 (R A) (2005年度・2006年度) C O E 研究員 (P D) (2007年度)

1 班 課題 3

【著書】

- 1 『1930、40年代の日本民俗学と中国』神奈川大学21世紀C O E プログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 『東アジア生活絵引 中国江南編』(共著)、神奈川大学21世紀C O E プログラム研究推進会議、2008年2月
- 3 『小川島の民俗—群馬県利根郡月夜野町下津小川島』(共著)、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2004年3月

【論文】

- 1 「関東大震災と航空写真」『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解説』神奈川大学21世紀C O E プログラム研究推進会議、2007年12月

- 2 「『関東大震災・地図と写真のデータベース化』の作業手順」『環境に刻印された人間活動および災害の痕跡解説』神奈川大学21世紀C O E プログラム研究推進会議、2007年12月

- 3 「『良友』の旅行関連記事—1920～1940年代の旅行と近代国家」『アジア遊学』第103号、勉誠出版、2007年9月
- 4 「戦時下の中国民俗研究—永尾龍造の研究と『支那民俗誌』編纂刊行の背景—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第4号、神奈川大学21世紀C O E プログラム研究推進会議、2007年3月

- 5 「太田陸郎とその中国研究—戦時下の民俗学者」『日本民俗学』248号、日本民俗学会、2006年11月

- 6 「教会大学と日中戦争—『北平私立輔仁大学档案』(1925-1952年) から見た戦時下の学生収容—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀C O E プログラム研究推進会議、2006年3月

【その他】

- 1 《共訳》 *Multilingual Version of Pictopedia of Everyday Life in Medieval Japan compiled from picture scrolls*, vol.1, 『マルチ言語版 絵巻物による日本常民生活絵引』第1巻(語彙編)、神奈川大学21世紀C O E プログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「第3回神奈川大学C O E 国際シンポジウムプレシンポジウム若手研究者ワークショップ『手段としての「非文字」—資料と方法のあいだ』を終えて」『非文字資料研究』No.19、神奈川大学21世紀C O E プログラム研究推進会議、2008年3月
- 3 「日中民俗学交流のひとこま—何恩敬とThe Handbook of Folkloreの中国導入—」『非文字資料研究』No.19、神奈川大学21世紀C O E プログラム研究推進会議、2008年3月
- 4 「『旅行雑誌 (China Traveler)』について」『非文字資料研究』No.18、神奈川大学21世紀C O E プログラム研究推進会議、2007年12月
- 5 「『良友』と戦時報道」『アジア遊学』第10号、

勉強出版、2007年9月

- 6 《翻訳》「熊月之『日本が上海に租界をつくろうとした件の資料』」『中国における日本租界—重慶・漢口・杭州・上海』御茶の水書房、2006年4月
- 7 「『民俗学誌』(Folklore Studies)について」『非文字資料研究』No.11、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 8 《コラム》「中国・国家主導の博物館事業」『非文字資料研究』No.6、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2004年12月

小林 光一郎 KOBAYASHI Koichiro

COE研究員 (RA) (2005年度)

【論文】

- 1 「『踊り歌う猫の話』に歌が組み込まれた背景—『猫じゃ猫じゃ』の歌を事例に—」『非文字資料研究の可能性—若手研究者成果論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「二つの湖にまつわる土地観念—猪名湖と長湖にまつわる伝承の背景にある歴史—」『松原の民俗』神奈川大学歴史民俗資料学研究科、2006年3月
- 3 「『踊る猫の話』伝承の背景—林恵太郎家の伝承をもとに—」『小川島の民俗』神奈川大学歴史民俗資料学研究科、2004年3月

土田 拓 TSUCHIDA Taku

COE研究員 (RA) (2005年度～2007年度)

3班 課題1

【論文】

- 1 「アルバムの中の戦後開拓」『非文字資料研究の可能性—若手研究者研究成果論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「住みつづける意志—紋別市内陸部における畜舎景観の成りたち—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月
- 3 「北海道非稲作地域の暮らしと民俗—紋別市内陸

部における麦の稈利用と脱穀をめぐる営み—」『北海道東北史研究』2号、北海道東北史研究会、2005年12月

- 4 「離農家を継ぐ—北海道紋別市のカヨイサクとカヨイサク地への安住」『歴史民俗資料学研究』第10号、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2005年3月

【その他】

- 1 「『開拓定住』を問う場としての北海道」『非文字資料研究』No.10、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年12月
- 2 「北海道の水稲直播き—雨竜郡幌加内町のタコアシをめぐる—」『民具マンスリー』第37巻9号、神奈川大学日本常民文化研究所、2004年12月

宮本 大輔 MIYAMOTO Daisuke

COE研究員 (RA) (2005年度)

日本学術振興会特別研究員 (21COE) 2006.4.1～2008.3.31

【論文】

- 1 「北京における言語評価」『非文字資料研究の可能性—若手研究者研究成果論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「日本人の言語評価—神奈川大学で行った予備調査に基づいて—」『言語と文化論集』14号、神奈川大学大学院外国語学研究科、2008年2月
- 3 「中国における言語評価—浙江省の大学生を例にして—」『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第4号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 4 「雲南省都市部における民族語使用状況—少数民族出身大学生の予備調査に基づいて—」『言語と文化論集』12号、神奈川大学大学院外国語学研究科、2005年12月
- 5 「言語危機からみる中国の共通語政策」『人文研究』No.156、神奈川大学人文学会、2005年9月
- 6 「中国における危機言語問題—言語転用が招く言語の死」『言語と文化論集』11号、神奈川大学大学院外国語学研究科、2004年12月

【その他】

- 1 「『Ethnologue から見る言語危機の拡大』『非文字資料研究』No.9、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2005年9月

國弘 暁子 KUNIHIRO Akiko

COE研究員（PD）（2006年度～2007年度）

2班 課題1

【論文】

- 1 「『異装』が意味するもの—インド、グジャラート州におけるヒジュラの衣装と模倣に関する考察—」『非文字資料研究の可能性—若手研究者研究成果論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「ヒジュラ：ジェンダーと宗教の境界域」『ジェンダー研究』第8号、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報、2005年3月、富士ゼロックス小林節太郎記念基金小林フェローシップ2004年度研究助成論文、『ジェンダー研究』第8号の転載、2006年1月

【その他】

- 1 「性とジェンダーをどうとらえるか—人類文化における普遍性と特殊性の一事例研究」『非文字資料研究』No.15、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月
- 2 「インドにおけるフィールドワークの実践」『非文字資料研究』No.13、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、30、2006年9月

本田 佳奈 HONDA Kana

COE研究員（PD）（2006年度）

3班 課題1

【論文】

- 1 「西米良村の山で働く人々と狩人の記録」『非文字資料研究の可能性—若手研究者研究成果論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月

【その他】

- 1 《調査報告》「日系カナダ人の持つ地名の記憶—バンクーバーにおける初歩的調査レポート—」

『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』第4号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年3月

- 2 《コラム》「手のひらが受け継ぐもの」『非文字資料研究』No.12、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年6月

劉 渴水 LIU Kebing

COE研究員（RA）（2006年度・2007年度）

3班 課題3

【論文】

- 1 「『詩経』から見た色彩語」『言語と文化論集』12号、神奈川大学大学院外国語学研究科、2005年12月
- 2 「『了』の文法的機能—対外教学におく『了』の教育法」『漢語教育研究』2004、2005年号（総第6号）、2005年11月
- 3 「中国語色彩語の象徴化」『人文研究』156号、神奈川大学人文学会、2005年9月

【その他】

- 1 「色彩認識の象徴化—京劇臉譜の表すもの」『非文字資料研究』No.14、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年12月

小野地 健 ONOCHI Takeru

COE研究員（PD）（2007年度）

4班

【論文】

- 1 「クシャミと人類文化—身体音からの人類文化研究の体系化のための試論—」『非文字資料研究の可能性—若手研究者研究成果論文集—』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「虹と市—境界と交換のシンボリズム」『人文研究』160号、神奈川大学人文学会、2007年3月
- 3 「『日招き伝承』考」『人文研究』158号、神奈川大学人文学会、2006年3月
- 4 「八百比丘尼伝承の死生観」『人文研究』155号、神奈川大学人文学会、2005年3月

【その他】

- 1 『『虹』と『市』』『非文字資料研究』No.16、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年6月

佐々木 弘美 SASAKI Hiromi

COE研究員（RA）（2007年度）

1班 課題2

【論文】

- 1 「熊野と律僧と市女笠——遍聖絵を読む——」『非文字資料研究の可能性——若手研究者研究成果論文集——』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2008年3月
- 2 「『朝鮮軍陣図屏風』を読み解く」『歴史民俗資料学研究』第12号、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2007年3月

高野 宏康 TAKANO Hiroyasu

日本学術振興会特別研究員（21COE）（2003.10.1～2006.3.31）

【論文】

- 1 「雄弁家としての永井柳太郎——四つの演論の分析

を中心に——」『歴史民俗資料学研究』第13号、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2008年3月

- 2 「演説のちから——戦前期の金沢における永井柳太郎の政治活動——」『歴史民俗資料学研究』第12号、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2007年3月

- 3 「銭屋五兵衛をめぐる歴史叙述と歴史意識——地域の記憶と共同性についての考察——」『歴史民俗資料学研究』第11号、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2006年3月

【その他】

- 1 《書評》「『財界人の戦争認識——村田省蔵の大東亜戦争——」（半澤健市著、歴史民俗資料学叢書2、2007年）」『歴史民俗資料学研究』第13号、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2008年3月
- 2 《書評》「『陰陽師と貴族社会』（繁田信一著、吉川弘文館、2004年）」『歴史民俗資料学研究』第10号、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、2005年3月